

ことになる。勿論、これは計算上の數値に過ぎないが、B村の死産率も、現に昭和十一年には八・二七、昭和十二年には五・二七に低下してゐるのであるから、この推計も全然見當違ひのものとは言へないであらう。

四

既に述べた如く、昭和十年までA村及びB村に於ける死産率は頗る高かつた。死産率が斯くの如くに高ければ、出生率はその影響を受けて自から低かるべきである。一應は想像し得るのであるが、事實は必ずしもさうではないのであつて、出生率も相當に高いのである。即ちA村の出生率を見るに、昭和五年には三七・八、昭和十年には三二・六である。またB村の出生率は、昭和五年には三八・一、昭和十年には二六・五七である。そして全國の出生率は昭和五年には三二・三五、昭和十年には三二・六三であるから、昭和十年のB村の出生率を除外すれば、A村及びB村の出生率は全國の出生率を遙かに凌駕してゐることが判る。もしこの兩村の死産率が全國の死産率と同一程度に低いものであつたと假定したならば、A村の出生率は昭和五年には四九・二、昭和十年には四三・八であり、またB村の出生率は、昭和五年には四九・八、昭和十年には三二・五に達してゐたと推算される。哺乳中のある期間、受胎が妨げられるに反して、死産ある場合、次の懷妊は比較的容易であると言はれるから、この推定出生率は高きに過ぎるであらうと言ふ非難がなされるかも知れない。しかし昭和十一年の現實の出生率を算出すれば、A村に於ては實に四七・三四、B村に於ては四四・四五に達してゐる。東北地方の農村に於ては、これよりも高き出生率を示してゐる場合も少くないが、この兩村の出生率は、全國的に見て、最も高き部類に屬することは確かである。

最近に於ける我が國死亡率の若干の傾向 (豫報) (一)

A村及びB村の出生率は、死産率の高い昭和十年以前に於ても決して低くはなかつたのである。死産率が著しく低下せる昭和十一年以後、妊孕力に變化がなき限り、この高き出生率は持續するものと考へなければならぬ。A村の村長は從來の悪習が一掃されたことを大なる喜びとしてゐられた。確かにこれは喜ばしき現象である。しかしこの山村が高き出生率を持續することは取りも直さず經濟的負擔の加重を意味するものであつて、高き出生率を祝福すると同時に、今にしてその收容力について適正なる方策を講ずるのでなければ、人口と經濟との關係に於て、至難の問題を惹起する危険があると信ずるのである。

最近に於ける我が國死亡率の

若干の傾向 (豫報) (一)

館 稔

上 田 正 夫

窪 田 嘉 彰

目 次

一 序

二 男子特殊死亡率

- (一) 總數 (二) 零歳死亡率(乳兒死亡率) (三) 一歳死亡率 (四) 二歳死亡率 (五) 三歳死亡率 (六) 四歳死亡率 (七) 五―九歳死亡率 (八) 一〇―一四歳死亡率 (九) 一五―一九歳死亡率 (一〇) 二〇―二四歳死亡率 (一一) 二五―二九歳死亡率 (一二) 三〇―三四歳死亡率 (一三) 三五―三九歳死亡率 (一四) 四〇―四九歳死亡率 (一五) 五〇―五九歳死亡率 (一六) 六〇歳以上死亡率 (以上本號掲載)

三 女子特殊死亡率

附 男女特殊死亡率比較

四 括 要

一 序

一般に、他の文明國に比して我が國の死亡率が良好であると云ひ得ないことは周知の通りである。然かも最近に於ける死亡率の傾向は決して樂觀を許さぬものがある。

事變發生以來總死亡率の變動が極めて微細なることのみを以て直ちに死亡率に對する事變の影響が現はれてゐないとは云ひ得ない。又、一部には、最近に於ける乳兒死亡率の低下を全く乳兒保健状態の改善に歸し之を慶ぶ意見もある。又、更に過日發表せられたる内閣統計局第六回生命表に據つて、我が國の生命表にも文明國並に男女死亡率の轉換の兆が現はれたことを慶ぶべき現象とする意見もあるやうである(註)。果して此等の現象が慶賀すべき現象なりや否や、假りに此等の現象が慶ぶべき現象でありとしても更に憂ふべき現象が存在せざるや否や、此等の問題を明かにするには、死亡率變動の内容を検討する必要がある。先づ第一に死亡統計自體が更に詳細精密に分析せられねばならぬ。そして人口政策上、不斷に變動する死亡率の動向に注視を怠つてはならないのである。

註 以上の男女死亡率の轉換の要因を検討し、必ずしも慶賀すべき現象に非ざる所以を明かにしたものに右の論文がある。本稿に後述するところと併せて参照せられ度い。高津英雄氏「男女別に見たる死亡率の變化」—内閣統計局「統計時報」第九八號、昭・一五・六。

本稿は最近に於ける我が國死亡率の諸傾向を明かにする一つの材料を得

る爲に算定したる男女別、年齢別及主要死因別の特殊死亡率にただ若干の簡條書の説明を加へたるに過ぎないものであつて、或は生物學的、醫學的、或は社會學的、經濟學的な考慮を加へようとする域には達してゐないのである。

右の特殊死亡率算定の方法は曩に本誌に掲載したる國勢調査年次に於ける推計男女別、年齢別人口(註)を除數にとり、内閣統計局「死因統計」の中分類に據り種類別死亡數を求めて之を被除數にとり、比例數を算定する方法に依つた。但し結核のみに就いては死因統計中分類第一一番の呼吸器の結核と第一二番のその他の結核の兩者及其の合計を採ることとした。

註 館 稔・窪田嘉彰「國勢調査年次に於ける男女年齢別人口の推計(一)。(二)——人口問題研究所「人口問題研究」第一卷第二號及第三號、昭・一五・五及六參照。

次に主要死因の選定方法は、昭和一〇年につき、男女夫々特殊年齢別の死亡總數に對して占める死因別死亡數の割合の順位を求め、其の割合の最大なるものを第一位に置き、第一位より順次採定して死亡總數の七〇%に達し又は之を越ゆるところを限界として留め、それ以上の順位の死因を採つて主要死因と定めたのである。

考察の期間は、應昭和五年より昭和一三年に至る九箇年間とし、特に昭和一〇年以後の説明に重點を置くこととした。我が國最近の經濟構造の急速の變化、從つて國民の社會生活状態の變化は滿洲事變後に始まり逐年其の速度を著しくして昭和一二年戰時體制下に突入した。死亡率の變化が純然たる生物學的、社會衛生學的的要因のみによつて規定されざる限り、此等の重大なる社會的事實の變化は死亡率の上に反映しなければならぬ。

而して其の時期は昭和五年と同一〇年の中間に始まるべき筈である。考察

期間を以上の如くに採つた理由の一は此處に存するのである(註)。

註 大正九年から昭和一〇年に至る間を考察の主たる期間として、我が國死亡率に關する極めて得要の左の研究がある。特に參照されんことを推奨する。

醫學博士渡邊定・川井三郎兩氏「我國に於ける出生及死亡の推移並に將來の人口觀察」—生命保險會社協會「會報第二八卷第一號、昭・一四・四。

尙本稿に於て「傾向」と稱するものは主として圖上に於て求める移動平均法に依つたものである。期間が短かく従つて項の數も少いし且つ一々傾向線を算定する繁を避けんとしたことによる。又、以下に於て傾向を説明する場合に「不變」と云ふ語を用ふることがある。此の語は甚だ不適當ではあるが、上昇又は下降の傾向の認められないこと、即ち謂はば「保合」の状態を意味することとする。稍、嚴密に云へば、傾向線の形狀が直線に近く、横軸に平行する場合を指すものとする。

二 男子特殊死亡率

一 總數

(1) 第一表、第二表、第一圖及第二圖の如く、特殊死亡率の全面に互つて相當顯著なる一上二下を繰り返してゐるが、總數に於ては全期間を通じて傾向として輕微なる下降を認めることが出来る。而して此の期間を通じて最低を示す昭和一〇年は傾向の一つの轉換點であるかの如く思はれる。即ち、昭和六年(滿洲事變)を最高として昭和一〇年に至る迄、しかく顯著ではないが下降の傾向を認めることが出来る。之に對して昭和一〇年から昭和一三年に至る間に於ては—素より極めて短期間であつて明確なる傾向を求めることは困難であるが—最早低下の傾向を認め難い

最近に於ける我が國死亡率の若干の傾向 (豫報) (一)

のであつて、少くとも停頓状態と見なければならぬ(註)。

註 以下假りに昭和五年—同一〇年の間を前期、昭和一〇年—同一三年の間を後期と呼ぶこととする。

(2) 後期に於て年齢別死亡率中特色ある傾向を示せるものを擧ぐれば次の如くである。

(イ) 零歳及一歳死亡率のみが低下を示し、爾餘の年齢階級に於ては何れも多少とも上昇の傾向を認めることが出来る。

(ロ) 特に上昇傾向の顯著なるものは一五—一九歳の階級であり、三歳、四歳、一〇—一四歳及五—九歳の階級である。

(ハ) 二〇—二四歳、二五—二九歳及三〇—三四歳の壯年人口の死亡率の傾向は前期を通じて憂慮すべき状態にあつたのであるが後期に至つても其の傾向を改めざることは頗る注目し價するものと云はねばならぬ。

(ニ) 支那事變發生の昭和一二年から同一三年にかけて總數に於て稍、上昇を示してゐるが、此の間に於ける増加の特に顯著なる年齢階級は四〇歳以上であつて、高次年齢に至る程上昇の度を増すかの觀がある。

(ホ) 後期に於ける死亡率總數の上昇傾向は比較的緩慢であるが、それには零歳及一歳の死亡率の低下が、爾餘の年齢階級に於ける上昇の傾向を打消してゐる形である。

(3) 昭和一〇年の事實に就て見るに、男總數の主要死因は、第三表の通り、「呼吸器」及「其他」の結核を併せて一一%を超えて第一位に上り、「腦出血、腦栓塞及腦血栓」が第二位を占めて一〇%を超えてゐる。以下、「肺炎」九%、「先天性弱質」(一歳未満)六%、「下痢及腸炎」(二歳未満)六%、「老衰」五%、「腎臟炎」五%、「癌、其の他の悪性腫瘍」四%、

80—84歳	2,082.23	2,232.78	1,960.25	2,082.52	2,130.64	1,877.05	2,119.80	1,954.48	2,277.53	1,606.62	1,738.77	1,561.08	1,644.89	1,720.89	1,511.70	1,711.17	1,593.23	1,812.54
85—89歳	2,806.06	3,052.63	2,762.24	2,858.91	2,958.56	2,672.58	3,167.11	2,818.72	3,312.49	2,369.74	2,592.08	2,299.44	2,424.10	2,519.99	2,268.62	2,678.82	2,488.17	2,940.84
90歳	3,651.44	4,236.91	4,104.63	4,218.97	4,338.65	3,824.08	4,403.67	4,352.97	5,097.17	3,014.20	3,650.23	3,580.39	3,885.46	3,934.50	3,291.25	4,304.83	4,308.03	5,092.40
60歳	779.53	824.38	753.32	768.49	789.98	731.76	780.33	730.69	801.36	623.79	656.80	607.84	618.19	641.51	584.29	630.21	586.96	643.77

(2) 指 数 (昭和10年基準)

年 齢	昭和5年	昭和6年	昭和7年	昭和8年	昭和9年	昭和10年	昭和11年	昭和12年	昭和13年	昭和15年	昭和16年	昭和17年	昭和18年	昭和19年	昭和10年	昭和11年	昭和12年	昭和13年	
總 数	107.31	112.53	104.98	105.33	107.36	100.00	104.15	100.82	103.99	109.32	113.79	106.44	106.13	108.23	100.00	104.56	101.41	104.43	
男																			
0歳	115.45	119.41	110.28	108.85	111.47	100.00	102.22	98.89	98.51	115.47	119.03	111.38	109.34	111.35	100.00	101.56	98.72	97.80	
1歳	106.00	116.77	109.70	104.32	111.76	100.00	97.00	102.33	90.74	105.93	115.79	110.39	104.43	109.45	100.00	94.43	101.06	88.63	
2歳	100.44	109.62	104.24	99.70	104.68	100.00	97.30	104.44	102.70	101.99	110.63	105.68	100.06	103.78	100.00	98.53	105.01	102.70	
3歳	98.98	108.51	106.11	102.52	106.57	100.00	103.05	109.11	110.39	100.87	109.03	108.60	100.49	108.41	100.00	102.79	111.36	107.51	
4歳	95.96	99.92	102.30	103.49	100.99	100.00	97.02	107.79	106.43	100.83	103.70	103.03	100.31	101.04	100.00	98.18	110.08	107.53	
0—4歳	110.10	118.12	110.82	108.67	110.03	100.00	102.15	101.26	97.15	110.29	117.71	111.67	108.17	109.29	100.00	101.05	101.29	96.29	
5—9歳	104.29	104.97	101.26	99.24	104.06	100.00	98.46	102.32	103.55	110.36	110.59	103.11	102.35	106.72	100.00	97.70	104.72	106.64	
10—14歳	106.92	105.82	103.74	104.96	105.90	100.00	106.96	104.60	110.31	108.69	106.43	101.22	102.26	105.36	100.00	106.43	104.72	111.30	
15—19歳	104.37	106.92	100.40	105.07	105.20	100.00	107.81	107.82	115.37	107.20	106.53	100.10	103.23	105.04	100.00	110.09	108.72	114.47	
20—24歳	97.63	101.42	97.03	100.91	103.17	100.00	105.79	102.94	104.66	108.25	107.91	101.19	103.39	104.56	100.00	105.76	102.99	105.53	
25—29歳	96.83	100.72	96.59	101.21	103.23	100.00	106.33	102.51	107.36	108.28	111.74	105.71	106.92	106.78	100.00	104.37	103.79	106.84	
30—34歳	98.28	102.23	99.76	102.58	104.80	100.00	106.30	103.08	106.16	108.65	113.48	106.94	105.71	107.85	100.00	105.71	100.29	105.68	
35—39歳	104.08	109.05	104.42	104.46	106.86	100.00	103.85	102.24	108.20	110.03	116.00	109.82	107.61	108.81	100.00	104.10	101.44	106.55	
40—44歳	106.31	111.54	102.89	103.88	104.94	100.00	101.81	100.11	106.35	109.56	113.23	104.93	107.88	109.32	100.00	103.87	99.86	105.23	
45—49歳	105.89	111.82	103.16	102.22	104.00	100.00	100.43	97.67	104.08	106.01	111.27	105.65	103.93	105.41	100.00	104.41	99.71	104.98	
50—54歳	102.70	107.11	101.11	101.80	103.56	100.00	103.94	100.30	105.94	101.69	107.14	100.95	101.14	103.83	100.00	104.04	101.08	105.55	
55—59歳	102.48	105.66	101.07	100.96	104.50	100.00	104.33	101.09	109.36	103.89	106.32	101.92	103.33	104.81	100.00	103.70	100.45	109.26	
60歳	106.53	112.66	102.95	105.02	107.96	100.00	106.64	99.85	109.51	106.76	112.41	104.03	105.80	109.79	100.00	107.86	100.46	110.18	

最近に於ける我が國死亡率の若干の傾向 (豫報) (一)

各 歳 別 死 亡 率

(各年齢階級人口 10,000 に付)

年 齢	總 數				男				女			
	昭和1)	昭和 11	昭和 12年	昭和 13年	昭和 10年	昭和 11年	昭和 12年	昭和 13年	昭和 10年	昭和 11年	昭和 12年	昭和 13年
45歳	106.83	110.85	99.32	112.70	116.12	123.49	108.49	125.77	96.99	96.36	89.53	98.63
46歳	109.93	113.96	110.92	112.09	123.98	126.16	124.19	125.07	95.13	101.04	96.81	98.29
47歳	114.96	118.55	118.12	125.15	131.76	132.16	133.20	141.10	97.15	104.24	102.22	108.24
48歳	124.73	123.95	124.28	131.85	143.51	139.01	142.49	150.51	105.27	108.06	105.21	112.24
49歳	139.99	139.01	132.21	138.42	165.21	157.73	151.46	160.75	114.43	119.71	111.99	115.14
45—49歳	118.52	121.05	116.84	123.90	134.91	135.49	131.76	140.41	101.38	105.85	101.09	106.43
40—49歳	104.83	107.20	103.81	109.76	114.32	115.30	112.61	119.53	94.75	98.57	94.41	99.33
50歳	142.20	150.85	143.10	147.78	167.63	176.11	163.89	172.96	116.44	125.37	121.78	121.46
51歳	157.46	160.13	159.51	162.39	185.36	185.87	190.39	187.20	129.83	134.17	128.53	137.08
52歳	162.99	167.77	164.30	177.27	191.47	198.75	193.39	210.93	135.36	137.28	133.20	143.70
53歳	175.35	183.21	177.53	188.80	209.92	217.22	209.22	225.97	141.65	150.43	146.53	151.78
54歳	185.59	194.11	186.45	200.97	222.51	236.97	225.53	244.25	149.86	152.65	149.04	158.93
50—54歳	164.65	171.25	165.83	174.56	195.15	202.83	195.73	206.74	134.67	140.11	136.13	142.14
55歳	200.04	202.46	201.92	216.51	241.01	245.59	243.17	262.89	160.27	161.06	162.33	172.47
56歳	212.21	217.11	212.70	229.04	258.69	261.64	260.85	279.52	167.63	174.27	171.65	181.00
57歳	226.21	235.27	229.51	243.08	276.17	292.21	285.24	298.95	178.10	181.18	166.23	190.43
58歳	255.03	260.48	212.51	280.87	313.94	324.25	313.33	344.77	199.46	199.73	206.42	220.65
59歳	256.21	283.96	261.44	287.49	319.25	349.88	322.73	356.32	197.52	222.53	199.75	223.59
55—59歳	229.35	238.64	230.25	250.42	280.80	292.95	283.87	307.09	180.28	186.95	181.09	196.97
50—59歳	195.43	203.73	197.31	210.93	235.57	245.86	237.70	254.02	156.54	162.89	158.05	168.87
60歳	284.52	290.26	295.26	307.34	351.78	360.98	363.96	380.66	222.27	225.26	232.06	239.21
61歳	311.16	327.45	298.94	343.39	379.48	407.73	370.13	423.55	248.72	254.17	234.39	270.63
62歳	321.91	356.15	335.00	350.91	395.31	439.06	414.26	434.60	256.25	281.44	263.67	276.09
63歳	341.45	366.28	365.33	393.25	424.58	451.40	443.34	487.01	266.95	291.31	296.11	310.15
64歳	375.81	394.73	384.37	423.07	456.71	483.63	478.20	520.65	304.26	316.39	463.67	337.92
60—64歳	323.36	342.97	332.40	360.10	397.00	423.51	409.40	444.52	256.77	270.45	263.29	284.19
65歳	435.38	442.74	402.73	444.87	539.62	540.75	492.47	551.76	345.40	357.60	303.10	353.95
66歳	469.45	497.06	447.95	477.28	590.77	605.27	545.27	591.89	367.88	405.43	365.10	379.99
67歳	473.63	550.74	518.09	534.13	587.67	679.47	627.53	654.05	379.63	445.16	427.30	434.03
68歳	565.40	538.41	560.36	610.33	679.88	656.09	700.20	737.10	469.85	443.50	443.13	507.44
69歳	618.32	654.11	561.27	669.89	760.90	776.19	685.11	826.36	504.39	554.52	463.67	547.18
65—69歳	507.31	532.12	493.36	535.85	625.17	645.74	602.68	657.24	409.23	437.61	402.76	435.23
60—69歳	400.27	419.15	397.00	430.23	489.93	510.74	484.99	527.18	321.95	324.24	320.50	345.83
70歳	629.45	721.76	677.94	659.75	758.05	868.82	813.46	796.08	527.78	607.06	570.04	554.86
71歳	701.01	743.78	732.69	805.46	840.65	888.57	894.88	960.88	592.18	632.22	609.39	684.35
72歳	762.84	799.00	757.97	872.63	901.04	965.83	904.99	1,045.42	658.31	672.42	647.70	744.77
73歳	814.31	901.14	819.07	910.52	990.46	1,068.45	973.43	1,078.58	686.60	778.12	705.23	787.97
74歳	951.54	944.14	925.84	980.60	1,134.93	1,130.65	1,112.24	1,163.64	821.21	812.74	792.74	849.49
70—74歳	746.32	803.82	769.67	830.42	892.06	961.57	922.63	989.37	635.67	684.73	654.21	711.46
75歳	983.94	1,108.75	972.36	1,120.09	1,161.77	1,305.98	1,129.41	1,305.53	857.26	977.76	865.03	991.64
76歳	793.30	1,181.66	1,134.03	1,172.37	1,299.66	1,368.50	1,323.55	1,378.27	1,000.79	1,052.68	1,007.43	1,036.02
77歳	1,184.43	1,347.69	1,204.87	1,360.82	1,366.42	1,552.94	1,384.73	1,606.80	1,063.17	1,212.93	1,084.65	1,201.74
78歳	1,261.86	1,408.66	1,360.56	1,477.78	1,460.71	1,647.64	1,573.18	1,682.22	1,133.13	1,254.59	1,233.09	1,345.59
79歳	1,348.29	1,470.89	1,441.93	1,656.19	1,563.29	1,678.24	1,659.70	1,917.78	1,216.69	1,341.09	1,377.19	1,495.51
75—79歳	1,163.02	1,291.07	1,203.44	1,329.37	1,347.51	1,493.31	1,388.45	1,541.41	1,039.93	1,156.86	1,081.72	1,190.29
70—79歳	905.01	978.64	919.26	993.53	1,057.47	1,143.22	1,074.89	1,160.56	794.78	859.98	807.17	873.78
80歳	1,437.05	1,615.47	1,507.06	1,796.93	1,670.48	1,881.04	1,718.85	2,066.96	1,298.89	1,458.31	1,378.87	1,634.18
81歳	1,508.29	1,789.85	1,625.11	1,868.95	1,707.42	2,062.91	1,848.94	2,178.33	1,393.55	1,633.58	1,497.03	1,687.89
82歳	1,775.39	1,850.19	1,761.34	1,973.48	2,069.56	2,083.18	2,056.41	2,279.27	1,612.02	1,720.31	1,597.99	1,804.22
83歳	1,764.66	2,169.10	1,858.70	2,188.95	2,038.78	2,462.41	2,084.00	2,553.75	1,617.57	2,011.38	1,737.11	1,993.41
84歳	2,082.94	2,171.96	2,182.18	2,326.53	2,293.23	2,456.61	2,430.51	2,608.45	1,975.79	2,023.84	2,052.69	2,178.98
80—84歳	1,643.24	1,858.31	1,723.79	1,980.84	1,877.05	2,119.80	1,954.48	2,277.53	1,511.70	1,711.17	1,593.23	1,812.54
85歳	2,231.93	2,649.65	2,211.04	2,718.78	2,473.55	2,996.97	2,489.26	2,950.02	2,087.62	2,477.66	2,070.33	2,601.58
86歳	2,269.26	2,777.92	2,646.08	2,808.16	2,632.49	3,168.78	2,839.83	3,120.86	2,104.37	2,592.54	2,552.56	2,653.99
87歳	2,478.69	2,767.62	2,791.66	3,295.59	2,771.90	3,030.60	3,016.93	3,584.63	2,347.20	2,650.82	2,687.15	3,159.09
88歳	2,674.39	3,084.58	2,786.21	3,498.96	2,993.02	3,332.40	3,014.42	3,870.00	2,539.98	2,975.28	3,056.78	3,329.67
89歳	2,839.88	3,307.44	3,090.28	3,816.73	2,870.61	3,801.01	3,290.11	3,881.32	2,825.61	3,098.70	3,003.01	3,788.80
85—89歳	2,395.96	2,833.55	2,594.58	3,061.76	2,672.58	3,167.11	2,818.72	3,312.49	2,268.62	2,678.82	2,488.17	2,940.84
80—89歳	1,822.06	2,077.33	1,918.44	2,220.11	2,047.56	2,332.52	2,130.86	2,488.18	1,700.96	1,939.69	1,802.75	2,073.31
90歳△	3,430.45	4,333.01	4,321.24	5,093.84	3,824.08	4,403.67	4,352.97	5,097.17	3,291.25	4,304.83	4,308.03	5,092.40

第2表 自昭和10年至昭和13年 男女

年 齡	總 數				男				女			
	昭和10年	昭和11年	昭和12年	昭和13年	昭和10年	昭和11年	昭和12年	昭和13年	昭和10年	昭和11年	昭和12年	昭和13年
總 數	167.78	175.08	169.63	174.82	173.77	180.99	175.20	180.70	161.75	169.13	164.03	168.91
0 歲	1,147.92	1,170.13	1,134.42	1,127.21	1,231.10	1,258.41	1,217.41	1,212.80	1,062.55	1,079.16	1,048.97	1,039.18
1 歲	368.44	352.78	374.78	330.54	376.04	364.77	384.82	341.22	360.67	340.57	364.51	319.65
2 歲	202.42	198.17	211.97	207.89	204.86	199.33	213.96	210.40	199.93	197.00	209.95	205.33
3 歲	133.72	137.62	147.40	145.69	132.97	137.03	145.09	146.78	134.48	138.23	149.76	144.58
4 歲	91.38	89.19	99.55	97.75	90.34	87.65	97.38	96.15	92.44	90.76	101.76	99.40
0—4 歲	407.03	413.68	412.20	209.76	427.34	436.52	432.72	415.18	386.27	390.34	391.24	371.95
5 歲	61.41	60.15	63.71	66.34	61.01	59.56	61.55	64.31	61.82	60.75	65.91	68.40
6 歲	46.13	43.26	46.57	46.10	46.50	43.16	46.35	46.26	45.75	43.36	46.80	45.93
7 歲	35.89	35.22	36.71	38.13	35.93	36.05	36.81	38.78	35.85	34.37	36.60	37.47
8 歲	28.64	29.61	30.55	30.37	29.00	30.75	30.50	30.97	28.27	28.46	30.60	29.75
9 歲	25.76	25.24	26.03	27.98	25.60	24.92	26.26	27.78	25.93	25.55	25.80	28.18
5—9 歲	39.63	38.86	41.01	42.04	39.67	39.06	40.59	41.87	39.58	38.67	41.45	42.21
0—9 歲	231.52	234.73	234.38	223.74	242.33	246.97	244.99	234.83	220.50	222.25	223.55	212.43
10 歲	23.61	24.55	24.64	25.52	22.58	24.04	23.86	25.13	24.65	25.06	25.43	25.88
11 歲	25.20	25.38	24.71	26.04	23.33	24.22	22.28	23.75	27.10	27.17	27.20	28.33
12 歲	25.88	28.08	27.38	28.83	21.55	23.23	23.75	24.93	30.29	33.03	31.07	32.81
13 歲	32.07	34.39	34.54	36.61	25.85	27.09	27.42	28.74	38.38	41.82	41.81	44.67
14 歲	43.92	48.18	46.92	50.74	34.35	38.00	36.49	38.68	53.71	58.53	57.57	63.14
10—14 歲	29.92	31.92	31.32	33.17	25.42	27.19	26.59	28.04	34.51	36.74	36.14	38.41
15 歲	53.18	62.73	61.27	65.43	42.44	49.40	49.99	53.95	64.17	76.40	72.77	77.17
16 歲	70.90	72.64	79.42	80.21	62.38	63.47	69.45	70.33	79.58	95.34	89.68	90.29
17 歲	79.75	87.18	82.98	94.45	75.18	80.97	78.70	89.84	84.41	93.51	87.38	99.19
18 歲	85.71	94.74	92.97	93.13	84.57	91.96	90.06	91.58	86.88	97.57	95.95	94.85
19 歲	91.25	98.24	95.52	103.22	90.92	98.51	95.16	103.45	91.57	97.97	95.89	102.98
15—19 歲	75.34	82.12	81.58	86.54	70.06	75.53	75.54	80.83	80.71	88.85	87.75	92.39
10—19 歲	50.98	55.09	54.57	58.10	46.12	49.51	49.26	52.73	55.92	60.77	60.00	63.58
20 歲	93.62	98.03	97.59	102.16	94.15	97.69	95.43	102.77	93.09	98.37	99.88	101.55
21 歲	96.28	101.01	95.54	97.34	98.37	99.49	93.28	97.01	94.26	102.54	97.84	97.67
22 歲	94.28	100.79	96.97	96.27	95.91	102.81	97.87	95.46	93.55	98.82	96.05	97.10
23 歲	92.64	99.40	97.48	98.18	92.36	101.18	101.78	97.08	92.92	97.64	93.31	99.30
24 歲	99.69	94.88	93.30	97.02	87.99	95.08	94.61	98.53	91.43	94.68	92.01	95.55
20—24 歲	93.43	98.83	96.21	98.20	93.79	99.22	96.55	98.16	93.08	98.44	95.86	98.23
25 歲	88.01	92.65	89.68	92.88	87.09	92.41	89.42	93.68	88.94	92.91	89.94	92.10
26 歲	82.57	89.97	85.51	87.74	82.94	87.94	84.26	86.75	82.19	91.03	86.80	88.75
27 歲	81.64	83.31	84.91	87.53	81.10	85.78	82.39	87.16	82.20	80.80	87.48	87.92
28 歲	76.94	82.67	79.70	86.01	75.61	80.82	78.94	84.57	78.34	84.60	80.46	87.49
29 歲	77.27	79.97	79.97	81.96	75.68	80.44	77.99	80.75	78.98	79.48	82.03	83.20
25—29 歲	81.52	85.89	84.10	87.32	80.73	85.84	82.76	86.67	82.35	85.95	85.47	87.98
20—29 歲	87.91	92.75	90.44	92.98	87.68	92.88	89.95	92.65	88.16	92.61	90.95	93.33
30 歲	74.56	80.13	76.63	80.22	72.16	75.04	75.06	75.66	77.05	85.61	78.30	84.95
31 歲	76.19	77.66	76.34	77.00	72.43	74.92	73.68	73.68	80.19	80.51	79.19	80.49
32 歲	76.04	80.43	74.49	80.75	72.73	77.99	72.00	77.98	79.53	83.03	77.06	83.74
33 歲	74.44	79.13	77.29	77.45	71.39	75.48	74.21	73.59	77.67	82.96	80.57	81.47
34 歲	74.63	81.07	77.33	83.02	69.88	77.79	74.56	80.23	79.73	84.55	80.25	85.98
30—34 歲	75.17	79.68	76.42	79.62	71.72	76.24	73.93	76.14	78.81	83.31	79.04	83.29
35 歲	74.64	78.30	77.25	81.20	72.16	73.43	73.90	77.06	77.27	83.54	80.80	85.56
36 歲	79.26	79.01	78.07	84.24	73.57	75.94	72.62	81.67	85.42	82.26	83.92	86.97
37 歲	79.20	84.38	80.78	83.47	75.43	80.22	77.69	80.63	83.24	88.89	84.06	86.52
38 歲	78.83	85.75	85.10	85.98	73.81	80.74	82.17	82.28	84.27	91.11	83.27	89.92
39 歲	85.62	85.98	83.81	92.22	84.83	84.32	82.25	89.48	86.33	87.77	85.49	95.19
35—39 歲	79.36	82.51	80.83	85.22	75.81	78.73	77.51	82.03	83.17	86.58	84.37	88.62
30—39 歲	77.12	81.03	78.54	82.31	73.63	77.43	75.66	78.98	80.84	84.86	81.59	85.84
40 歲	85.20	89.26	86.52	92.99	83.66	88.25	87.35	91.29	86.87	90.33	85.61	94.81
41 歲	89.93	92.12	90.69	91.80	90.37	91.45	92.66	93.89	89.45	92.85	88.59	89.53
42 歲	93.45	93.71	91.94	100.67	97.47	95.11	96.69	103.67	89.09	92.17	86.80	97.48
43 歲	91.52	101.36	94.08	99.52	98.06	107.10	98.53	106.74	84.52	95.16	89.24	91.72
44 歲	103.38	98.98	99.50	104.68	112.55	107.62	105.87	116.10	93.59	89.74	92.63	92.29
40—44 歲	92.32	94.87	92.32	97.70	95.79	97.52	95.90	101.87	88.58	92.01	88.46	93.21

最近に於ける我が國死亡率の若干の傾向 (豫報) (一)

「下痢、腸炎及腸潰瘍」(二歳以上)四%、「不慮の傷害」三%、「脳膜炎」(結核性を除く)、「其の他の消化器の疾患」、「不明の診断及不詳の原因」(逆夫々約三%といふ状態である(第三表参照))。

註 「不明の診断及不詳の原因」を主要死因中に加へることに就ては問題がある。此處では一應機械的に主要死因の割合を七〇%で句切つて之に入り來りたるまゝに採つて置くこととする。此の中には他の主要死因に屬すべきものが少なからず混入してゐると憶測することも出来る。

(4) 今、主要死因別死亡率を見れば(第四表及第三圖参照)、

(イ) 「結核」は明瞭なる上昇。

(ロ) 「脳出血、脳栓塞及脳血栓」は顯著なる上昇。

(ハ) 「肺炎」は之亦顯著なる上昇。此の中には眞の死因が「結核」なるものも混在してゐると憶測することが出来る。

(ニ) 「先天性弱質」(一歳未満)は明瞭なる低下。

(ホ) 「下痢及腸炎」(二歳未満)は顯著なる低下。

(ヘ) 「老衰」は著しき上昇。特に昭和一三年の上昇が顯著である。

(ト) 「腎臓炎」は軽度の上昇。

(チ) 「癩、其の他の悪性腫瘍」は「不變」。

(リ) 「下痢、腸炎及腸潰瘍」(二歳以上)は明瞭なる上昇。

(ヌ) 「不慮の傷害」は軽度の上昇。

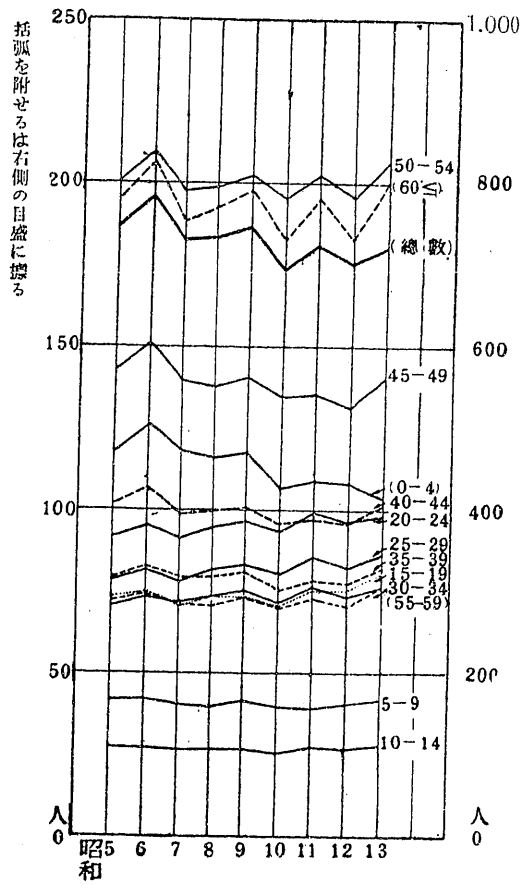
(ル) 「脳膜炎」(結核性を除く)は軽度の低下。

(ヲ) 「其の他の消化器の疾患」は輕微なる低下。

(ワ) 「不明の診断及不詳の原因」は殆んど「不變」。

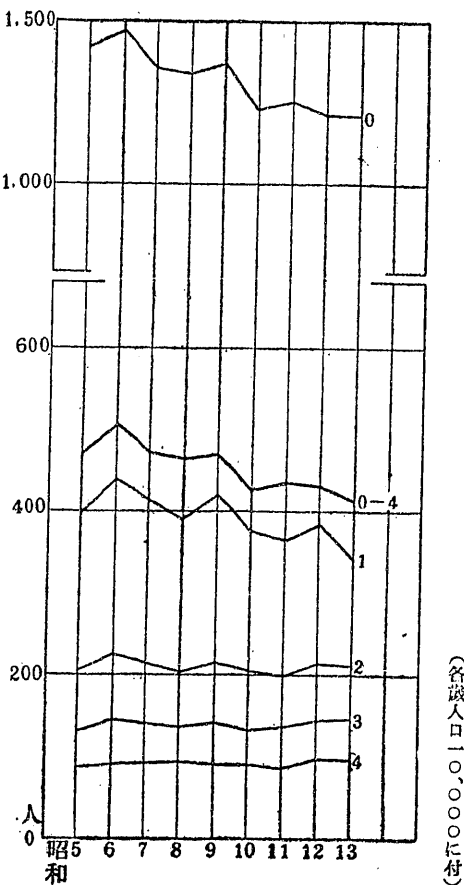
(カ) 此の間に於ける死亡上昇の傾向に積極的作用を及ぼしてゐるものは「結核」「脳出血、脳栓塞及脳血栓」及「肺炎」の上昇であつて、此等

第一圖 男五歲階級別死亡率の變動



(各年齢階級人口一〇、〇〇〇に付)

第二圖 男零歳及五歳未満幼兒死亡率の變動



(各歳人口一〇、〇〇〇に付)

第三表 男總數主要死因別死亡

(死因名上の數字は中分類死因番號、以下故之)

死因	實數					割合				
	昭和一〇年	昭和一一年	昭和一二二年	昭和一三三年	昭和一〇年	昭和一一年	昭和一二二年	昭和一三三年		
總數	六〇三,五六六	六三七,八五四	六五二,九三六	六五二,九三六	100.00	100.00	100.00	100.00		
主 要 死 因	四三八,三七一	四六五,三四〇	四五四,一六六	四七五,五〇七	78.63	77.95	72.59	72.83		
一 一 及 一 二 結 核	六七,二三八	七三,四九五	七三,〇四〇	七五,三六一	11.14	11.52	11.27	11.54		
一 一 呼 吸 器 の 結 核 (氣 管 及 氣 管 支 の 結 核)	五一,八五〇	五六,八三八	五五,六〇九	五七,一四七	8.59	8.91	8.89	8.75		
一 二 其 の 他 の 結 核	一五,三八八	一六,六五七	一七,四三一	一八,二一四	2.55	2.61	2.79	2.79		
三 三 腦 出 血, 腦 栓 塞 及 腦 血 栓	六二,九八三	六五,三二三	六五,〇九七	六九,九九一	10.44	10.24	10.41	10.71		
四 八 肺 炎	五六,六七七	六〇,〇三〇	五八,〇六六	六四,四三五	9.39	9.41	9.28	9.87		
七 四 先 天 性 弱 質 (一 歳 未 滿)	三四,九五四	三七,一一五	三四,七二九	三三,〇三四	5.79	5.82	5.55	5.06		
五 二 下 痢 及 腸 炎 (二 歳 未 滿)	三四,二〇二	三七,五六七	三五,四〇三	三〇,七六七	5.67	5.89	5.66	4.71		
七 八 老 衰	三三,〇四六	三七,一九二	三四,二八五	四〇,一三六	5.31	5.83	5.48	6.15		
五 九 腎 臟 炎	二七,五一四	二八,一一〇	二七,四〇三	三〇,六七九	4.56	4.41	4.38	4.70		
一 八 癩, 其 の 他 の 惡 性 腫 瘍	二四,七四四	二四,八三四	二五,八一〇	二五,五〇五	4.10	3.89	4.13	3.91		
五 三 下 痢, 腸 炎 及 腸 潰 瘍 (二 歳 以 上)	二二,四二三	二二,四七〇	二二,七一〇	二二,六三五	3.55	3.52	3.79	3.93		
八 一 不 慮 の 傷 害	二〇,四六五	二二,三六五	二二,四九四	二二,五四七	3.39	3.35	3.44	3.45		
三 〇 腦 膜 炎 (結 核 性 を 除 く)	一九,七〇一	一九,二六二	一九,八五三	一九,一五九	3.26	3.02	3.01	2.93		
五 八 其 の 他 の 消 化 器 の 疾 患	一八,七四七	一八,五七八	一八,八九八	一九,三六七	3.11	2.91	3.02	2.97		
八 五 不 明 の 診 斷 及 不 詳 の 原 因	一七,六七七	一九,九九九	一七,三七八	一八,八九一	2.93	3.14	2.78	2.89		
其 の 他	一六五,一九五	一七二,五一四	一七二,四九九	一七七,四二九	27.37	27.05	27.41	27.17		

第四表 男總數主要死因別死亡率

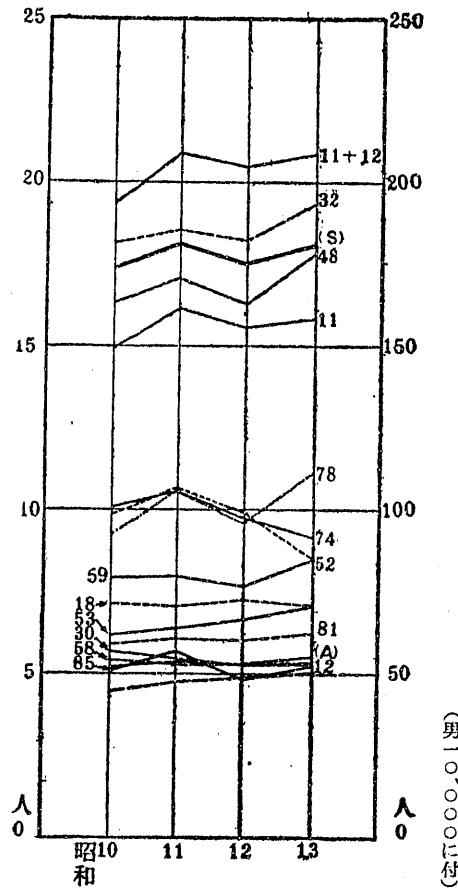
(男10,000に付)

死因	因數				
	昭和一〇年	昭和一二二年	昭和一三三年	昭和一〇年	昭和一二二年
總數	一七三,七七七	一八〇,九九九	一七五,二〇〇	一八〇,七〇〇	一八〇,七〇〇
主 要 死 因	一二六,二二二	一三三,〇〇四	一二七,一八八	一二三,六〇〇	一二三,六〇〇
一 一 及 一 二 結 核	一九,三三六	二〇,八八五	二〇,四四五	二〇,八八六	二〇,八八六
一 一 呼 吸 器 の 結 核 (氣 管 及 氣 管 支 の 結 核)	一四,九三三	一六,一三三	一五,五五七	一五,八二二	一五,八二二
一 二 其 の 他 の 結 核	二,三九三	二,八七一	二,九二八	二,九八四	二,九八四
三 三 腦 出 血, 腦 栓 塞 及 腦 血 栓	一八,一三三	一八,五五四	一八,二三三	一八,五三四	一八,五三四
四 八 肺 炎	一六,三三二	一七,〇三三	一七,〇三三	一七,〇三三	一七,〇三三
七 四 先 天 性 弱 質 (一 歳 未 滿)	一〇,〇六六	一〇,五三三	一〇,五三三	一〇,五三三	一〇,五三三
五 二 下 痢 及 腸 炎 (二 歳 未 滿)	九,八八五	一〇,六六六	一〇,六六六	一〇,六六六	一〇,六六六
七 八 老 衰	九,三三三	一〇,五五五	一〇,五五五	一〇,五五五	一〇,五五五
五 九 腎 臟 炎	七,九二二	七,九八八	七,九八八	七,九八八	七,九八八

最近に於ける我が國死亡率の若干の傾向 (豫報) (一)

一八	癩、其の他の悪性腫瘍	七・二二	七・〇五	七・三三	七・〇六
五三	下痢、腸炎及腸潰瘍(二歳以上)	六・一七	六・三八	六・六四	七・〇九
八一	不慮の傷害	五・八九	六・〇六	六・〇二	六・二四
三〇	脳膜炎(結核性を除く)	五・六七	五・四七	五・二八	五・三〇
五八	其の他の消化器の疾患	五・四〇	五・二七	五・二九	五・三六
八五	不明の診断及不詳の原因	五・〇九	五・六七	四・八七	五・三三
其の他		四七・五六	四八・九五	四八・〇一	四九・一〇

第三圖 男總數主要死因別死亡率の變動



- S.....總數
- 一一.....呼吸器の結核(気管及気管支の淋巴腺を含む)
- 一二.....其の他の結核
- 四八.....肺炎
- 五二.....下痢及腸炎(二歳未満)
- 五九.....密癩炎
- 五三.....下痢、腸炎及腸潰瘍(二歳以上)
- 八一.....不慮の傷害
- 五八.....其の他の消化器の疾患
- 八五.....不明の診断及不詳の原因
- A.....其の他
- 一一二.....結核
- 三二.....脳出血、脳栓塞及脳血栓
- 七四.....先天性弱質(二歳未満)
- 七八.....老衰
- 一八.....痛、其の他の悪性腫瘍
- 三〇.....脳膜炎(結核性を除く)

括弧を附せるは右側の目盛に據る

は「先天性弱質」及「下痢及腸炎」(二歳未満)の著しき低下を相殺して尙且餘りあるものと云はねばならぬ。

二 零歳死亡率 (乳兒死亡率)

(1) 前期を通じて他の年齢階級に比し零歳死亡率の低下が最も顯著である。一般に死亡率中に占める零歳死亡率の重要な地位に鑑みれば、前期に於ける死亡率總數の低下は此の零歳死亡率の低下に依るところ頗る大なるを知り得る。

(2) 後期に於て、明瞭なる低下の傾向を示してゐるものは零歳死亡率のみである。但し其の程度は極めて微弱である。

(3) 昭和五年から同一三年に至る期間に於て始めて出生率と零歳死亡率との共變關係が明瞭に認められるやうになつて來たことは人口統計學上頗る興味ある事實であると思ふ。視察に依る限り其の時差(時差)は一年であると思はれる。此の問題については稿を改めて論ずることとする。兎に角、此の期間に至つて零歳死亡率の變動が出生率のそれと一層密接且つ明瞭なる關係を持つに至つたことは注意を要すると思ふ(第五表参照)。

(4) 前期に於ける零歳死亡率の低下はそれ以前から引き續いて相當顯著であつて、其の間に於ける出生率の低下とは著しく程度を異にする。従つて此の間に於ける零歳死亡率の低下は出生率の低下との關係のみによつては説明することが出來ない。更に従つて其の間に乳兒の保健状態の改善を十分に認めてよいと思はれる。

(5) 然るに、後期に於ては零歳死亡率低下の速度は著しく緩慢微弱になつてゐる。ただこれだけの材料を以て斷定することは出來ないけれど

も、此の期に至つては乳兒保健状態の改善といふことよりも出生率低下との關係の方が遙かに強いかに憶測することが出来る。

第五表 零歳死亡率及出生率變動比較

(大正五年—昭和十三年)

年次	實數		指數(昭和十一年基準)	
	零歳死亡率 (零歳人口一〇〇〇に付)	出生率 (人口一〇〇〇に付)	零歳死亡率	出生率
大正五年	一、八三三・四五	三三・六八	一五八・八五	一〇一・〇二
六	一、九一一・三七	三三・三四	一六六・五一	九九・九七
七	二、一〇九・〇〇	三三・一九	一八三・七二	九九・五一
八	一、九五七・七五	三三・六二	一七〇・五五	九七・七四
九	一、七八七・五一	三三・一九	一五五・七二	一一・一八七
〇	一、八五七・一七	三五・〇六	一六一・七九	一〇八・三八
一	一、七七三・〇三	三四・二六	一五四・四六	一〇五・六〇
二	一、八〇二・二九	三四・九四	一五七・〇〇	一〇八・〇一
三	一、六九六・七六	三三・七九	一四七・八一	一〇四・四五
四	一、五四六・三三	三四・九二	一三四・七一	一〇七・九四
五	一、四五四・九八	三四・七七	一二六・七五	一〇七・四八

昭和 二 一、四六七・六〇 三三・六一 一二七・八五 一〇三・八九
 三 一、四八三・七一 三四・三八 一二九・二五 一〇六・二八
 四 一、四九三・三七 三三・〇〇 一三〇・〇九 一〇二・〇一
 五 一、三二五・一二 三二・三五 一一五・四四 一〇二・二八
 六 一、三六八・三九 三二・一七 一一九・二一 一〇一・七一
 七 一、二七一・五七 三二・九二 一一〇・七七 一〇四・〇八
 八 一、二五二・二三 三二・五五 一〇九・〇八 九九・七五
 九 一、二七九・〇三 二九・九七 一一一・四二 九四・七五
 〇 一、一四七・九二 三一・六三 一〇〇・〇〇 一〇〇・〇〇
 一 一、一七〇・二三 二九・九二 一〇一・九三 九四・五九
 二 一、一三四・四二 三〇・六一 九八・八二 九六・七八
 三 一、一二七・二二 二六・七〇 九八・二〇 八四・四一

(6) 主要死因を見るに、乳兒死亡の二七・五%の多きを占めるものは「先天性弱質」(一歳未満)であつて第一位を占め、「肺炎」が一七・九%にして第二位、「下痢及腸炎」(二歳未満)が一七・〇%で第三位を占め、以上三者を以て乳兒死亡の六二・五%の多きに達し、乳兒の死因は極めて集中的である(第六表参照)。

第六表 男零歳主要死因別死亡

死因	實數					割合					
	昭和十一年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	昭和十一年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年
總數	一、二六、九三六	一、三三、八九九	一、二五、五八九	一、二〇、三九七	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇
主要死因	九〇、〇七八	九五、五〇三	八九、三三二	八五、八四〇	七〇・九六	七二・三二	七二・〇四	七二・〇四	七二・三二	七二・〇四	七二・三〇
先天性弱質(一歳未満)	三四、九五四	三七、一一五	三四、七二九	三三、〇三四	二七・五四	二七・七二	二七・六五	二七・四四	二七・五四	二七・六五	二七・四四
肺炎	二二、七六二	二二、二七〇	二二、九八〇	二二、五八五	一七・九三	一七・三三	一七・三三	一七・三三	一七・九三	一七・三三	一七・三三
下痢及腸炎(二歳未満)	二二、五九四	二四、二三四	二二、四四九	一九、六〇七	一八・〇九	一八・〇九	一七・〇八	一七・〇八	一八・〇九	一七・〇八	一六・二九
その他の幼若乳兒固有の疾患(三箇月未満)	五、五九四	五、八〇〇	五、三九九	四、九一八	四・四一	四・三三	四・三〇	四・三〇	四・四一	四・三〇	四・〇八
脳膜炎(結核性を除く)	五、一七四	五、〇九四	四、六六五	四、六九六	四・〇八	三・八〇	三・七一	三・七一	四・〇八	三・九〇	三・九〇
その他	三六、八五八	三八、三九六	三六、三六七	三四、五五七	二八・〇四	二八・六八	二八・九六	二八・七〇	二八・〇四	二八・六八	二八・七〇

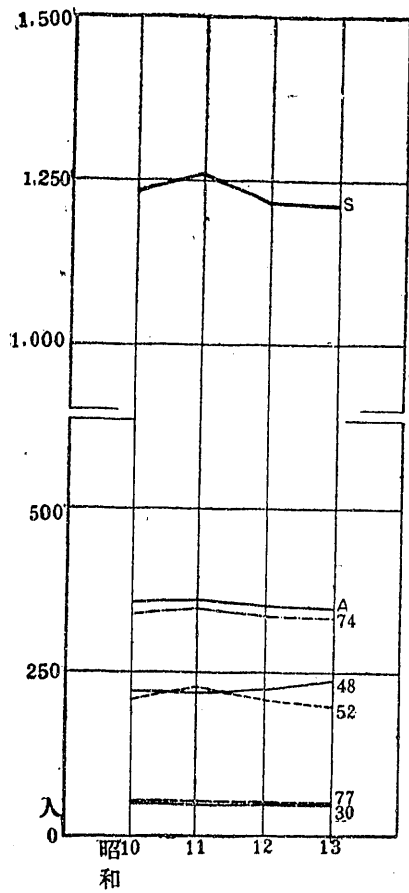
最近に於ける我が國死亡率の若干の傾向 (豫報) (一一)

第七表 男零歳主要死因別死亡率

死 因	昭和10年	昭和11年	昭和12年	昭和13年
總 數	1,231.1	1,258.4	1,277.4	1,223.8
主 要 死 因	873.6	897.6	864.9	864.7
七 四 先 天 性 弱 質 (一 歳 未 滿)	339.0	348.8	336.6	333.8
四 八 肺 炎	220.8	218.7	223.8	237.6
五 二 下 痢 及 腸 炎 (二 歳 未 滿)	209.4	237.7	207.9	197.5
七 七 其 他 の 幼 若 乳 兒 固 有 の 疾 患	54.3	54.5	52.3	49.5
三 〇 腦 膜 炎 (結 核 性 を 除 く)	50.2	47.9	45.2	47.3
其 他	357.5	360.9	352.5	348.1

(零歳男1,000に付)

第四圖 男零歳主要死因別死亡率の變動



(零歳男1,000に付)

S.....總數
 七四.....先天性弱質(一歳未滿)
 四八.....肺炎
 五二.....下痢及腸炎(二歳未滿)
 七七.....其他の幼若乳兒固有の疾患
 三〇.....腦膜炎(結核性を除く)
 A.....其の他

(7) 主要死因別死亡率を見れば(第七表及第四圖参照)。

(イ) 「先天性弱質」の死亡率は零歳死亡率總數の傾向と類似はしてゐるが變動の幅は極めて狭少であり、低下の速度も極めて微弱であつて寧ろ「不變」に近き状態である。その結果第六表の主要死因別死亡率に於ては却つて其の割合を増してゐる。

(ロ) 「肺炎」のみは明かに上昇。

(ハ) 「下痢及腸炎」(二歳未滿)は零歳死亡率總數と殆んど同様の變動をみせてゐる。

(ニ) 「其の他の幼若乳兒固有の疾患」(三箇月未滿)及「腦膜炎」(結核性を除く)は殆んど「不變」。

(ホ) 以上の如く最近に於ける零歳死亡率の低下は「下痢及腸炎」(二歳未滿)の低下によるところが少くないと思はれるが、此の傾向が果して繼續し得るか否か、必しも斷定することは出来ない。「先天性弱質」(一歳未滿)は若干の低下を示してゐるが、其の性質上急速度の低下を期待することは困難である。「肺炎」に至つては上昇の傾向をさへ示してゐるのであつて、此等の事實を綜合すれば總數に於て若干の低下傾向を示してゐるとしても、更に之を分析すれば現在の零歳死亡率の低下は甚だ不安定であり、決して樂觀を許すものとは云ひ難いのである。

三 一歳死亡率

(1) 前期後期を通じて軽度の低下傾向を認めることが出来る。

(2) 主要死因の第一位を占めるものは「下痢及腸炎」(二歳未滿)であつて三六%の多きに達し「肺炎」は之に亞いで二四%を示し、「下痢及腸炎」と共に一歳死亡の二大死因をなしてゐる。死因の集中的なることは乳兒死

四 二歳死亡率

(1) 前期に於ては軽度なる低下が認められるが、後期に於ては稍、上昇の傾向を見出すことが出来る。

(2) 主要死因の第一位は「下痢、腸炎及腸潰瘍」(二歳以上)であつて二〇%に達し、第二位「肺炎」は一六%、「赤痢及疫痢」及「脳膜炎」(結核性を除く)が之に亞ぎ夫々一〇%を稍、超えてゐる(第一〇表参照)。

(3) 主要死因別死亡率を見るに(第一一表及第六圖参照)、
 (イ) 「下痢、腸炎及腸潰瘍」(二歳以上)は漸次上昇。
 (ロ) 「肺炎」は殆んど「不變」。
 (ハ) 「赤痢及疫痢」は相當顯著なる上昇。
 (ニ) 「其の他の消化器の疾患」は昭和一二二年迄上昇してゐるが、同一三年には若干低下。
 (ホ) 「脳膜炎」(結核性を除く)及「不慮の傷害」は殆んど「不變」。

第一〇表 男二歳主要死因別死亡

死 因	實 數					割 合				
	昭和一〇年	昭和一一年	昭和一二年	昭和一三年	昭和一〇年	昭和一一年	昭和一二年	昭和一三年		
總 數	一九,〇七三	一八,〇六七	一九,八二〇	二〇,一三三	一〇〇.〇〇	一〇〇.〇〇	一〇〇.〇〇	一〇〇.〇〇		
主 要 死 因	一三,七八三	一三,三五一	一四,六二二	一四,九六一	七二.二六	七三.九〇	七三.七七	七四.五三		
五三下痢、腸炎及腸潰瘍(二歳以上)	三,八四四	三,九八六	四,三三三	四,四二三	二〇.二五	二二.〇六	二二.八一	二二.九九		
四八 肺 炎	三,〇三三	二,八〇六	三,〇一八	三,一三二	一五.八〇	一五.五三	一五.二三	一五.五七		
九 赤 痢 及 疫 痢	一,九七八	一,七九四	二,一五九	二,四〇四	一〇.三七	九.九三	一〇.八九	一二.九五		
三〇 腦 膜 炎(結核性を除く)	一,九七三	一,七六九	一,七九五	一,八六一	一〇.三四	九.七九	九.〇六	九.二五		
五八 其の他の消化器の疾患	一,八九七	一,九六五	二,三三五	二,一三二	九.九五	一〇.八八	一一.七八	一〇.六〇		
八一 不 慮 の 傷 害	一,〇七八	一,〇三三	九九二	一,〇三九	五.六五	五.七一	五.〇一	五.一七		
其 の 他	五,二九〇	四,七一五	五,一九九	五,二二二	二七.七四	二六.一〇	二六.三三	二五.四七		

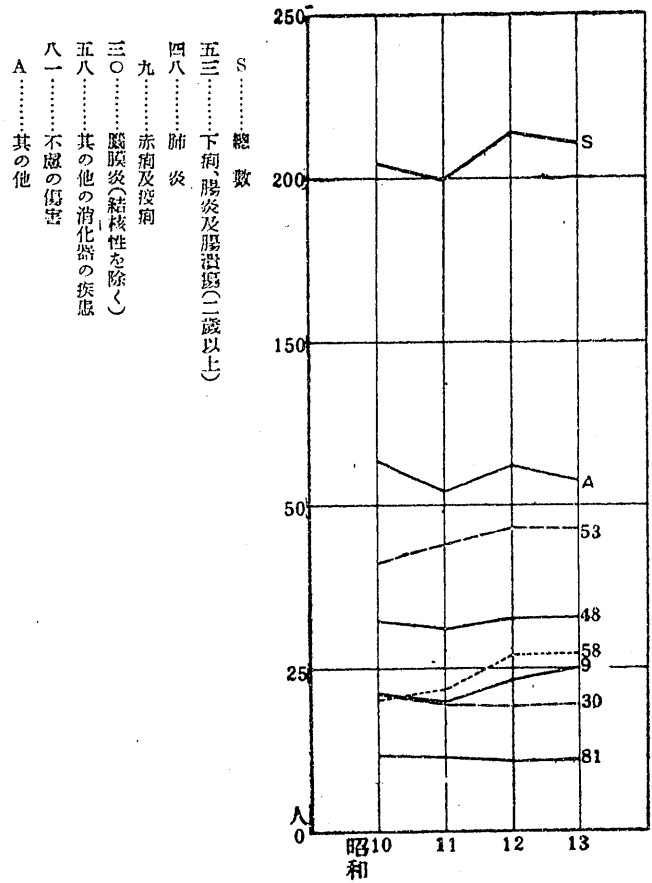
第一一表 男二歳主要死因別死亡率

(二歳男一〇,〇〇〇に付)

死 因	因 數					因 率				
	昭和一〇年	昭和一二年	昭和一三年	昭和一三年	昭和一〇年	昭和一一年	昭和一二年	昭和一三年		
總 數	二〇,四一六	一九,九三三	二二,三九六	二二,〇四〇	二〇.四一	一九.九三	二二.四〇	二二.〇四		
主 要 死 因	一四,八〇四	一四,七三一	一五,七八三	一五,六八二	七二.五二	七三.八三	七四.二二	七三.〇〇		
五三下痢、腸炎及腸潰瘍(二歳以上)	四,一三九	四,三九八	四,六六六	四,六二七	二〇.二九	二二.〇二	二一.〇七	二〇.八二		
四八 肺 炎	三,〇三三	二,八〇六	三,〇一八	三,一三二	一五.八〇	一五.五三	一五.二三	一五.五七		
九 赤 痢 及 疫 痢	一,九七八	一,七九四	二,一五九	二,四〇四	一〇.三七	九.九三	一〇.八九	一二.九五		
三〇 腦 膜 炎(結核性を除く)	一,九七三	一,七六九	一,七九五	一,八六一	一〇.三四	九.七九	九.〇六	九.二五		
五八 其の他の消化器の疾患	一,八九七	一,九六五	二,三三五	二,一三二	九.九五	一〇.八八	一一.七八	一〇.六〇		
八一 不 慮 の 傷 害	一,〇七八	一,〇三三	九九二	一,〇三九	五.六五	五.七一	五.〇一	五.一七		
其 の 他	五,二九〇	四,七一五	五,一九九	五,二二二	二七.七四	二六.一〇	二六.三三	二五.四七		

第六圖 男二歳主要死因別死亡率の變動

(二歳男10,000に付)



五 三歳死亡率

- (1) 前期に於ける傾向は殆んど「不變」であるが、後期に至つて稍、明瞭なる上昇を示してゐる。
- (2) 主要死因の第一位は二歳と同じく「下痢、腸炎及腸潰瘍」(二歳以上)であつて二〇・五%に達し、第二位の「赤痢及疫痢」は二五%、「脳膜炎」(結核性を除く)一二%、「肺炎」一一%、「其の他の消化器の疾患」七%、「不慮の傷害」六%といふ順位である(第一二表参照)。
- (3) 主要死因別死亡率を見るに(第一三表及第七圖参照)、
 - (イ) 「下痢、腸炎及腸潰瘍」(二歳以上)は明瞭なる上昇。
 - (ロ) 「赤痢及疫痢」の増加は主要死因別死亡率中最も著しい。
 - (ハ) 「脳膜炎」(結核性を除く)は傾向として殆んど「不變」。
 - (ニ) 「肺炎」は此の年齢に於ては相當明かな上昇。
 - (ホ) 「其の他の消化器の疾患」は輕微なる上昇。

第一二表 男三歳主要死因別死亡

死 因	實 數			割 合		
	昭和一〇年	昭和一一年	昭和一二年	昭和一〇年	昭和一一年	昭和一二年
總 數	11,210	11,541	12,918	100.00	100.00	100.00
主 要 死 因	8,725	9,100	9,443	77.14	78.56	73.04
五三 下痢、腸炎及腸潰瘍(二歳以上)	2,507	2,633	2,810	22.35	22.80	21.74
九 赤 痢 及 疫 痢	1,803	2,005	2,101	16.08	17.37	16.27
三〇 腦 膜 炎(結核性を除く)	1,438	1,371	1,360	12.73	11.80	10.53
四八 肺 炎	1,372	1,403	1,499	12.24	12.16	11.59
五八 其の他の消化器の疾患	900	949	982	7.94	8.23	7.60
八一 不慮の傷害	705	739	651	6.20	6.41	5.04
其 他	3,495	3,441	3,485	31.14	29.74	26.96
昭和一三年	13,366	9,889	100.00	100.00	100.00	100.00
總 數	11,210	11,541	12,918	100.00	100.00	100.00
主 要 死 因	8,725	9,100	9,443	77.14	78.56	73.04
五三 下痢、腸炎及腸潰瘍(二歳以上)	2,507	2,633	2,810	22.35	22.80	21.74
九 赤 痢 及 疫 痢	1,803	2,005	2,101	16.08	17.37	16.27
三〇 腦 膜 炎(結核性を除く)	1,438	1,371	1,360	12.73	11.80	10.53
四八 肺 炎	1,372	1,403	1,499	12.24	12.16	11.59
五八 其の他の消化器の疾患	900	949	982	7.94	8.23	7.60
八一 不慮の傷害	705	739	651	6.20	6.41	5.04
其 他	3,495	3,441	3,485	31.14	29.74	26.96

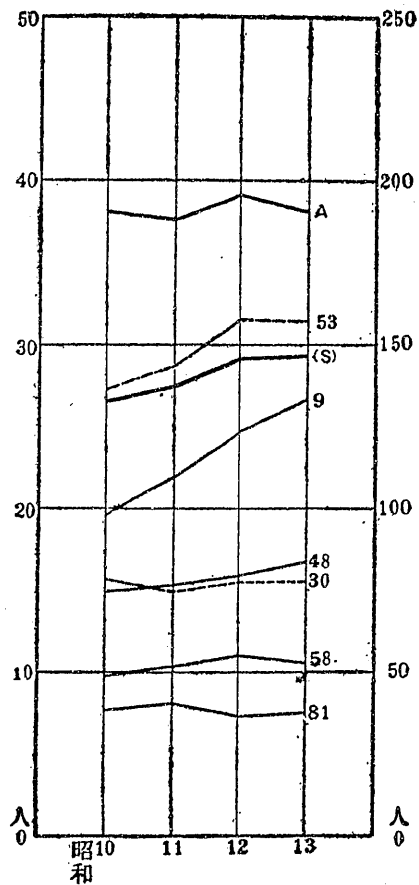
最近に於ける我が國死亡率の若干の傾向 (豫報) (一)

第一三表 男三歳主要死因別死亡率

死 因	昭和一〇年	昭和一一年	昭和一二年	昭和一三年
總 數	一三三・九七	一三七・〇三	一四五・〇九	一四六・七八
主 要 死 因	九四・九四	九九・四三	一〇五・九八	一〇八・六〇
五三 下痢、腸炎及腸潰瘍(二歳以上)	二七・二八	二八・七七	三一・五四	三一・四五
九 赤 痢 及 疫 痢	一九・六二	二二・九一	二四・七〇	二六・七〇
三〇 腦 膜 炎(結核性を除く)	一五・六五	一四・九八	一五・四九	一五・五七
四八 肺 炎	一四・九三	一五・三三	一五・九三	一六・七二
五八 其の他の消化器の疾患	九・七九	一〇・三七	一一・〇一	一〇・五九
八一 不 慮 の 傷 害	七・六七	八・〇七	七・三一	七・五七
其 の 他	三・八〇	三・七六	三・九一	三・八二

(三歳男10,000に付)

第七圖 男三歳主要死因別死亡率の變動



S 總數
 五三 下痢、腸炎及腸潰瘍(二歳未満)
 九 赤痢及疫痢
 三〇 腦膜炎(結核性を除く)
 四八 肺炎
 五八 其の他の消化器の疾患
 八一 不慮の傷害
 A 其他
 括弧を附せるは右側の目盛に據る

(ハ) 「不慮の傷害」は傾向として殆んど「不變」。

(4) 後期に於て五歳未満の死亡率中最も明瞭な上昇を認め得るのは三歳死亡率であるが、此の年齢の死亡率を高めてゐるものは主要死因第二位の「赤痢及疫痢」の増加及死因第一位の「下痢、腸炎及腸潰瘍」(二歳以上)であるといふことが出来る。此の兩死因の死亡總數中に占める割合も爲に上昇の傾向を辿つてゐる。

六 四歳死亡率

(1) 前期に於ける傾向線は極めてなだらかな「上方に凸」の圓弧を描いてゐるが、後期に至つては、三歳の如く著しくはないが、稍、明瞭なる上昇を認めることが出来る。

(2) 主要死因の第一位は二歳及三歳と同様に「下痢、腸炎及腸潰瘍」(二歳以上)であつて一八%に、第二位は三歳と同様「赤痢及疫痢」で一五%に達してゐる。第三位の「腦膜炎」(結核性を除く)は一二%、「肺炎」一〇%、「不慮の傷害」、「其の他の消化器の疾患」、「腎臓炎」は夫々七%、六%、五%を示してゐる(第一四表参照)。

(3) 主要死因別死亡率を見るに(第一五表及第八圖参照)、

- (イ) 「下痢、腸炎及腸潰瘍」(二歳以上)は頗る顯著なる上昇。
- (ロ) 「赤痢及疫痢」も亦更に顯著なる上昇。
- (ハ) 「腦膜炎」(結核性を除く)は寧ろ低下。
- (ニ) 「肺炎」は相當上下してゐるが、傾向としては殆んど「不變」。
- (ホ) 「不慮の傷害」は昭和一三年に急増。
- (ヘ) 「其の他の消化器の疾患」も明かな上昇。
- (ト) 「腎臓炎」は低下。

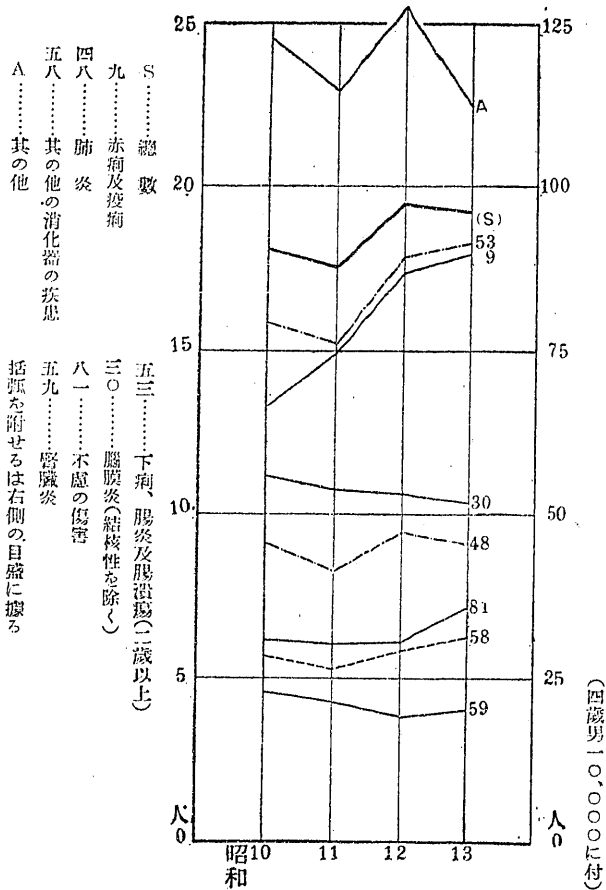
第一四表 男四歳主要死因別死亡

死	因	實					合
		昭和一〇年	昭和一一年	昭和一二二年	昭和一三年	昭和一〇年	
總	數	八、二二八	七、九六四	八、八二二	八、四七〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇
主	要	五、九三二	五、八八二	六、四七三	六、四八九	七二・八六	七三・八六
五三	下痢、腸炎及腸潰瘍(二歳以上)	一、四二三	一、三八一	一、六二六	一、六一一	一七・五二	一七・三四
九	赤痢及疫痢	一、一九七	一、三五六	一、五七一	一、五八〇	一四・七三	一七・〇三
三〇	腦膜炎(結核性を除く)	一、〇〇五	九七六	九六一	九一三	一二・三六	一二・二六
四八	肺	八二〇	七五一	八五五	八〇一	一〇・〇九	九・四三
八一	不慮の傷害	五五五	五四九	五五二	六三三	六・八三	六・八九
五八	其他の消化器の疾患	五二二	四八〇	五二七	五四九	六・三〇	六・〇三
五九	腎臓	四一〇	三八九	三九一	四〇二	五・九八	五・九八
其	他の	二、二〇六	二、〇八二	二、三三九	二、九八一	二七・二四	二六・一四

第一五表 男四歳主要死因別死亡率

死	因	昭和一〇年			昭和一一年			昭和一二二年			昭和一三年		
		數	率	因	數	率	因	數	率	因	數	率	
總	數	九〇・三四	八七・六五	九七・三八	九六・一五	九〇・三四	八七・六五	九七・三八	九六・一五	九〇・三四	八七・六五	九七・三八	
主	要	六五・八二	六四・七四	七一・五三	七三・六六	六五・八二	六四・七四	七一・五三	七三・六六	六五・八二	六四・七四	七一・五三	
五三	下痢、腸炎及腸潰瘍(二歳以上)	一五・八二	一五・二〇	一七・八六	一八・二九	一五・八二	一五・二〇	一七・八六	一八・二九	一五・八二	一五・二〇	一七・八六	
九	赤痢及疫痢	一三・三〇	一四・九二	一七・三六	一七・九四	一三・三〇	一四・九二	一七・三六	一七・九四	一三・三〇	一四・九二	一七・三六	
三〇	腦膜炎(結核性を除く)	一・一七	一・〇七四	一・〇六二	一・〇三六	一・一七	一・〇七四	一・〇六二	一・〇三六	一・一七	一・〇七四	一・〇六二	
四八	肺	九・一一	八・二七	九・四五	九・〇九	九・一一	八・二七	九・四五	九・〇九	九・一一	八・二七	九・四五	
八一	不慮の傷害	六・二七	六・〇四	六・一〇	七・一九	六・二七	六・〇四	六・一〇	七・一九	六・二七	六・〇四	六・一〇	
五八	其他の消化器の疾患	五・六九	五・二八	五・八二	六・二三	五・六九	五・二八	五・八二	六・二三	五・六九	五・二八	五・八二	
五九	腎臓	四・五六	四・二八	四・三三	四・五六	四・五六	四・二八	四・三三	四・五六	四・五六	四・二八	四・三三	
其	他の	二・四・五二	二・二・九一	二・五・八五	二・三・四九	二・四・五二	二・二・九一	二・五・八五	二・三・四九	二・四・五二	二・二・九一	二・五・八五	

第八圖 男四歳主要死因別死亡率の變動



最近に於ける我が國死亡率の若干の傾向 (豫報) (一)

(4) 後期に於て、五歳未満中三歳に亞いで明かな上昇を認め得るのは四歳の死亡率であるが、此の年齢の死亡率を高めてゐるものは三歳と同じく主として主要死因第二位の「赤痢及疫痢」の増加と死因第一位の「下痢、腸炎及腸潰瘍」(二歳以上)であつて、更に四歳に於ては「其の他の消化器の疾患」及「不慮の傷害」も若干の作用を及ぼしてゐると云ふことが出来る。

七 五―九歳死亡率

(1) 前期に於ける傾向は極めて微弱なる低下を辛ふじて認め得る程度であるが、後期に於ては明瞭なる上昇を示してゐる。

第一六表 男五―九歳主要死因別死亡

死 因	實 數					割 合				
	昭和一〇年	昭和一一年	昭和一二年	昭和一三年	昭和一〇年	昭和一一年	昭和一二年	昭和一三年		
總 數	一七,〇六九	一六,九〇七	一七,六六三	一八,三七三	100.00	100.00	100.00	100.00		
主 要 死 因	一一,一八七	一一,四一八	一一,九五四	一二,六一八	七一.四〇	七三.四五	七三.三四	七四.一一		
三〇 腦 膜 炎(結核性を除く)	二,二三二	二,一〇三	二,一六九	二,一三〇	一三.〇八	一二.四四	一二.二八	一一.五九		
一一二及一一 結 核	一,八五九	一,九〇〇	一,七四八	一,八七五	一〇.八九	一一.二四	九.九〇	一〇.二一		
一一 其の他の結核	一,三四〇	一,三九〇	一,二八九	一,四一六	七.八五	八.二三	七.三〇	七.七一		
一一 呼吸器の結核(氣管及氣管支、林巴腺を含む)	五一九	五一〇	四五九	四五九	三.〇四	三.〇二	二.六〇	二.五〇		
八一 不 慮 の 傷 害	一,六八四	一,八六〇	二,〇三七	二,〇〇三	九.八七	一一.〇〇	一一.五三	一〇.九〇		
四八 肺 炎	一,五四五	一,五五三	一,五二八	一,六六一	九.〇五	九.一九	八.六五	九.〇四		
五三 下痢、腸炎及腸潰瘍(二歳以上)	一,五三四	一,五五八	一,七五一	一,八三三	八.九九	九.三三	九.九一	九.九八		
九 赤 痢 及 疫 痢	一,三二四	一,四七五	一,六九〇	一,九五二	七.七六	八.七二	九.五七	一〇.六二		
五九 腎 臟 炎	一,〇一〇	一,〇一七	一,〇三四	一,一一一	五.九二	六.〇二	五.八〇	六.〇五		
五八 其の他の消化器の疾患	九九九	九五二	一,〇〇七	一,〇五三	五.八五	五.六三	五.七〇	五.七三		
其の他の	四,八八二	四,四八九	四,七〇九	四,七五五	二八.六〇	二六.五五	二六.六六	二五.八八		

(2) 後期に就いて第二表に據つて之を各歳別に見るに、特に顯著なる上昇を認め得るのは五歳の死亡率である。此の年齢の死亡率は前期を通じて上昇を示し更に後期に於ても上述の如く上昇を繼續してゐるのである。一〇歳未満死亡率中三歳四歳と共に注意を要する點であると云はねばならぬ。後期に於ては五歳に亞いで七歳及九歳の死亡率にも稍、明瞭なる上昇が見られ、六歳及八歳は「不變」と云ひ得る。従つて五―九歳の死亡率の上昇は、五歳七歳及九歳のその上昇によるものと見てよろしからう。

(3) 此の年齢階級の主要死因の第一位を占めるものは「腦膜炎」(結核性を除く)であつて二三%を示し、第二位の「結核」は約一一%、「不慮の傷

害」一〇%、「肺炎」及「下痢、腸炎及腸潰瘍」(二歳以上)各、九%、「赤痢及疫痢」八%、「腎臓炎」及「其の他の消化器の疾患」各六%である(第一六表参照)。

(4) 主要死因別死亡率を見るに(第一七表及第九圖参照)。

- (イ) 「脳膜炎」(結核性を除く)は明かなる低下。
- (ロ) 「結核」は上下の變動が著しいが傾向としては殆んど「不變」。
- (ハ) 「不慮の傷害」は明瞭なる上昇。
- (ニ) 「肺炎」は輕微な上昇。
- (ホ) 「下痢、腸炎及腸潰瘍」(二歳以上)は顯著なる上昇。
- (ヘ) 「赤痢及疫痢」は最も著しき上昇。

第一七表 男五—九歳主要死因別死亡率

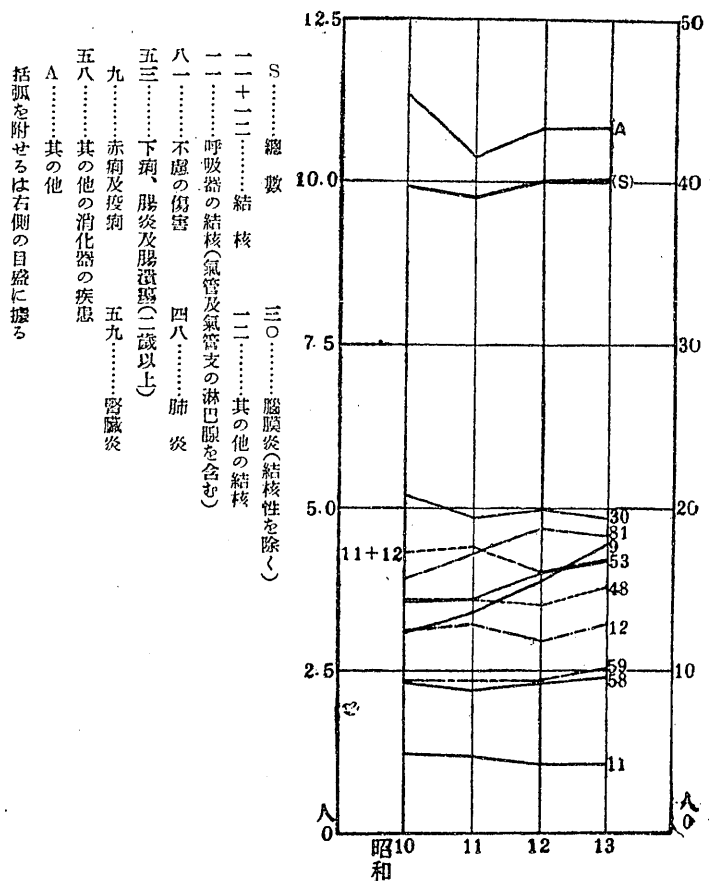
(五—九歳男一〇,〇〇〇に付)

死 因	昭和一〇年	昭和一二年	昭和二三年	昭和一三年
總 數	三九・六七	三九・〇六	四〇・五九	四一・六七
主 要 死 因				
三〇 腦 膜 炎(結核性を除く)	五・一九	四・八六	四・九八	四・八五
一一二 其の他の結核	四・三二	四・三九	四・〇二	四・三三
一一 呼吸器の結核(氣管及氣管支の淋巴腺を含む)	三・二一	三・二一	二・九六	三・三三
八一 不慮の傷害	一・二二	一・一八	一・〇五	一・〇五
四八 肺 炎	三・九一	四・三〇	四・六八	四・五六
五三 下痢、腸炎及腸潰瘍(二歳以上)	三・五九	三・五九	三・五一	三・七九
九 赤 痢 及 疫 痢	三・五六	三・六〇	四・〇二	四・一八
五九 腎 臓 炎	三・〇八	三・四一	三・八八	四・四五
五八 其の他の消化器の疾患	二・三五	二・三五	二・三五	二・五三
其の他の	二・三三	二・二〇	二・三三	二・四〇
他	一一・三四	一〇・三七	一〇・八二	一〇・八四

最近に於ける我が國死亡率の若干の傾向 (豫報) (一)

第九圖 男五—九歳主要死因別死亡率の變動

(五—九歳男一〇,〇〇〇に付)



(ト) 「腎臓炎」及「其の他の消化器の疾患」は共に輕度の上昇。

(5) 後期に於ける五—九歳死亡率を高めてゐる主なるものは「不慮の傷害」、「下痢、腸炎及腸潰瘍」(二歳以上)及「赤痢及疫痢」であると見ることが出来る。

八一〇—一四歳死亡率

(1) 前期を通じて稍、明かに下降の傾向を示してゐるが、後期に於ては五—九歳と略、同様の明瞭なる上昇を認めることが出来る。

(2) 後期に就て第二表に據つて之を各歳別に見るに、各歳共略、同様

第一八表 男一〇—一四歳主要死因別死亡

死 因	實 數					割 合				
	昭和一〇年	昭和一一年	昭和一二年	昭和一三年	昭和一〇年	昭和一一年	昭和一二年	昭和一三年		
總 數	九、八五五	一〇、八一九	一〇、八三〇	一、一五九〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇		
主 要 死 因	六、九六六	七、六六四	七、七〇二	八、一六八	七〇・六八	七〇・八四	七一・二二	七〇・四七		
一二及一一 結核	二、三七五	二、六六七	二、六三九	二、六五六	二四・一〇	二四・六五	二四・二八	二四・九二		
一二 其の他の結核	一、二一九	一、三七九	一、三六五	一、四三二	一二・三七	一二・七五	一二・六〇	一二・三六		
一一 呼吸器の結核(氣管及氣管支の淋巴腺を含む)	一、一五六	一、二八八	一、二六四	一、二三四	一一・七三	一二・九一	一二・六七	一二・五六		
三〇 腦 膜 炎(結核性を除く)	九七七	一、〇〇九	九九八	一、〇九八	九・九一	九・三三	九・二二	九・四七		
五八 其の他の消化器の疾患	七四九	七八四	八二八	八六八	七・六〇	七・二五	七・六五	七・四九		
八一 不慮の傷害	七四四	九〇七	八九二	九三二	七・五五	八・三八	八・二四	八・〇四		
四八 肺 炎	五一四	六二四	六三九	七九三	五・三二	五・七七	五・九〇	六・八四		
五九 腎 臟 炎	四七四	四九二	五一七	六一九	四・八一	四・五五	四・七七	五・三四		
一四 膿毒症及敗血症	四〇三	四二二	四〇六	三八三	四・〇九	三・九〇	三・七五	三・三〇		
五三 下痢、腸炎及腸潰瘍(二歳以上)	三九一	四一九	四六七	四八〇	三・九七	三・八七	四・三二	四・一四		
四〇 慢性心臟内膜炎及心臟瓣膜の障碍	三三九	三四〇	三二六	三三九	三・四四	三・一四	三・〇一	二・九二		
其の他の	二、八八九	三、一五五	三、二二八	三、四三二	二九・三二	二九・一六	二八・八八	二九・五三		

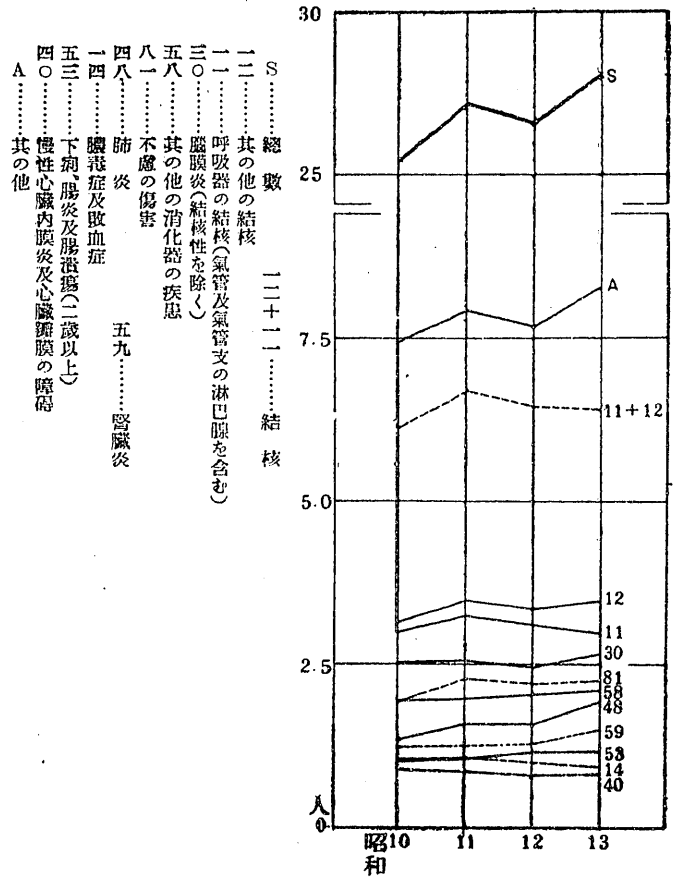
第一九表 男一〇—一四歳主要死因別死亡率

(一〇—一四歳男一〇,〇〇〇に付)

死 因	昭和一〇年			昭和一一年			昭和一二年			昭和一三年		
	總 數	主 要 死 因	其の他の結核	總 數	主 要 死 因	其の他の結核	總 數	主 要 死 因	其の他の結核	總 數	主 要 死 因	其の他の結核
總 數	二五・四二	一七・九七	三・二四	二七・一九	一九・二六	三・四七	二六・五九	一八・九一	三・三五	二八・〇四	一九・七六	三・四六
主 要 死 因	一七・九七	一七・九七	三・二四	一九・二六	一九・二六	三・四七	一八・九一	一八・九一	三・三五	二八・〇四	一九・七六	三・四六
一二及一一 結核	六・二二	六・二二	一・九八	六・七一	六・七一	一・九八	六・四五	六・四五	一・九八	六・四二	六・四二	一・九八
一二 其の他の結核	三・二四	三・二四	一・〇〇	三・四七	三・四七	一・〇〇	三・三五	三・三五	一・〇〇	三・四六	三・四六	一・〇〇
一一 呼吸器の結核(氣管及氣管支の淋巴腺を含む)	二・九八	二・九八	〇・八七	三・二四	三・二四	〇・八七	三・一〇	三・一〇	〇・八七	三・四六	三・四六	〇・八七
三〇 腦 膜 炎(結核性を除く)	二・五二	二・五二	〇・八七	二・五二	二・五二	〇・八七	二・五二	二・五二	〇・八七	二・五二	二・五二	〇・八七
五八 其の他の消化器の疾患	一・九三	一・九三	〇・八七	一・九三	一・九三	〇・八七	一・九三	一・九三	〇・八七	一・九三	一・九三	〇・八七
八一 不慮の傷害	一・九二	一・九二	〇・八七	一・九二	一・九二	〇・八七	一・九二	一・九二	〇・八七	一・九二	一・九二	〇・八七
四八 肺 炎	一・三三	一・三三	〇・八七	一・三三	一・三三	〇・八七	一・三三	一・三三	〇・八七	一・三三	一・三三	〇・八七
五九 腎 臟 炎	一・三三	一・三三	〇・八七	一・三三	一・三三	〇・八七	一・三三	一・三三	〇・八七	一・三三	一・三三	〇・八七
一四 膿毒症及敗血症	一・〇四	一・〇四	〇・八七	一・〇四	一・〇四	〇・八七	一・〇四	一・〇四	〇・八七	一・〇四	一・〇四	〇・八七
五三 下痢、腸炎及腸潰瘍(二歳以上)	一・〇一	一・〇一	〇・八七	一・〇一	一・〇一	〇・八七	一・〇一	一・〇一	〇・八七	一・〇一	一・〇一	〇・八七
四〇 慢性心臟内膜炎及心臟瓣膜の障碍	一・〇一	一・〇一	〇・八七	一・〇一	一・〇一	〇・八七	一・〇一	一・〇一	〇・八七	一・〇一	一・〇一	〇・八七
其の他の	七・四五	七・四五	二・五二	七・四五	七・四五	二・五二	七・四五	七・四五	二・五二	七・四五	七・四五	二・五二

第一〇圖 男一〇—一四歳主要死因別死亡率の變動

(一〇—一四歳男一〇,〇〇〇に付)



に比較的軽度の上昇を示してゐる。

(3) 此の年齢階級の主要死因の第一位は「結核」であつて二四%を超え、「脳膜炎」(結核性を除く)が第二位を占めて一〇%に達せんとし、五—九歳に較べて死因の第一位と第二位との轉換が現はれてゐる。尙、此の年齢階級に於て第一位に上つた「結核」は、以後、四〇—四九歳の年齢階級に至る迄死因の第一位を持續し、五〇—五九歳の年齢階級に於て初めて其の地位を退いてゐるのである。此の點から見ても我が國の結核が人口現象に如何に重大なる關係を持つてゐるかは明かである。第三位の「其の他の消化器の疾患」及第四位の「不慮の傷害」は共に八%、「肺炎」及「腎

最近に於ける我が國死亡率の若干の傾向 (豫報) (一)

臓炎」各、五%等である(第一八表参照)。

(4) 主要死因別死亡率を見るに(第一九表及第一〇圖参照)。

(イ) 「結核」は昭和一二年に於て特に高くなつてゐるが、傾向は軽度の上昇。

(ロ) 「脳膜炎」(結核性を除く)は軽度の上昇。

(ハ) 「其の他の消化器の疾患」はなだらかな微弱な上昇。

(ニ) 「不慮の傷害」は昭和一年に若干上昇し以後殆んど「不變」。

(ホ) 「肺炎」は最も顯著なる上昇。

(ヘ) 「腎臓炎」は明かな上昇。

(ト) 「膿毒症及敗血症」及「慢性心臓内膜炎及心臓瓣膜の障碍」は稍、低下を示し、「下痢、腸炎及腸潰瘍」(二歳以上)は軽度ではあるが明かな上昇をみせてゐる。

九 二五—一九歳死亡率

(1) 前期の傾向は殆んど「不變」であるが、後期に於ては他の年齢階級に比し最も顯著なる上昇を示してゐる。

(2) 後期に就いて之を各歳別に見るに(第二表参照)、最も上昇の顯著なるは一七歳にして一九歳之に次ぎ以下一八歳、一六歳及一五歳の順である。後に述ぶるが如く、二〇歳乃至三四歳の憂ふべき死亡率上昇の傾向が、一九歳、一八歳等の逐次下位の生産年齢人口に波及するかの傾向が認められることは頗る戒心を要する事實と云はねばならぬ。

(3) 主要死因第一位の「結核」は此の年齢階級に至つて著しく其の地位を擴大し、四六%の多きに達してゐる。第二位に「不慮の傷害」の位することも注目する事實であつて其の割合は六%を超え、第三位の「肋膜炎」

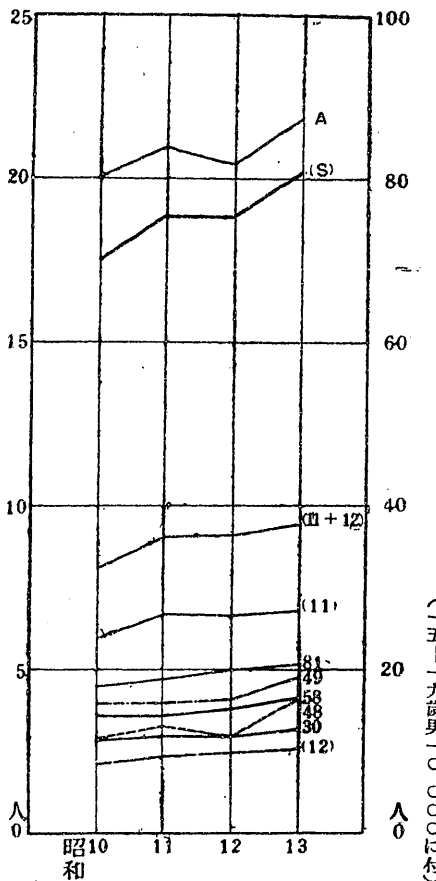
第二〇表 男一五—一九歳主要死因別死亡

死因	昭和十一年					昭和十二年					昭和十三年				
	總數	主	一及二	二	三	總數	主	一及二	二	三	總數	主	一及二	二	三
呼吸器の結核(氣管及氣管支の結核を含む)	七,九六六	一〇,八二四	九,一三六	三,二〇〇	三,四一九	九,三二五	一三,六九一	四,八〇二	四,八〇二	三,五二四	三,五二四	四,八〇二	四,八〇二	四,八〇二	四,八〇二
其他の結核	二,八二八	一,三三七	一,三三〇	一,三三〇	一,三三〇	一,三三〇	一,三三〇	一,三三〇	一,三三〇	一,三三〇	一,三三〇	一,三三〇	一,三三〇	一,三三〇	一,三三〇
慮の傷害	一,五〇二	一,三三七	一,三三七	一,三三七	一,三三七	一,三三七	一,三三七	一,三三七	一,三三七	一,三三七	一,三三七	一,三三七	一,三三七	一,三三七	一,三三七
肋膜炎	一,三三七	一,三三七	一,三三七	一,三三七	一,三三七	一,三三七	一,三三七	一,三三七	一,三三七	一,三三七	一,三三七	一,三三七	一,三三七	一,三三七	一,三三七
其他の消化器の疾患	一,二〇一	一,二〇一	一,二〇一	一,二〇一	一,二〇一	一,二〇一	一,二〇一	一,二〇一	一,二〇一	一,二〇一	一,二〇一	一,二〇一	一,二〇一	一,二〇一	一,二〇一
肺炎	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六	九六六
腦膜炎(結核性を除く)	九五〇	九五〇	九五〇	九五〇	九五〇	九五〇	九五〇	九五〇	九五〇	九五〇	九五〇	九五〇	九五〇	九五〇	九五〇
其他	六七一五	七,一五三	七,一五三	七,一五三	七,一五三	七,一五三	七,一五三	七,一五三	七,一五三	七,一五三	七,一五三	七,一五三	七,一五三	七,一五三	七,一五三

第二二表 男一五—一九歳主要死因別死亡率

死因	昭和十一年			昭和十二年			昭和十三年		
	總數	主	一及二	總數	主	一及二	總數	主	一及二
呼吸器の結核(氣管及氣管支の結核を含む)	七〇・〇六	七五・五三	七五・五三	七五・五三	八〇・八三	八〇・八三	七五・五三	七五・五三	七五・五三
其他の結核	五〇・〇二	五四・五八	五四・五八	五四・五八	五九・〇二	五九・〇二	五四・五八	五四・五八	五四・五八
慮の傷害	三三・三〇	三六・二二	三六・二二	三六・二二	三七・七〇	三七・七〇	三六・二二	三六・二二	三六・二二
肋膜炎	二三・八六	二六・七五	二六・七五	二六・七五	二七・一九	二七・一九	二六・七五	二六・七五	二六・七五
其他の消化器の疾患	八・四四	九・三七	九・三七	九・三七	一〇・五一	一〇・五一	九・三七	九・三七	九・三七
肺炎	四・四八	四・七〇	四・七〇	四・九九	五・一七	五・一七	四・四八	四・四八	四・四八
腦膜炎(結核性を除く)	三・九三	三・九五	三・九五	四・〇九	四・七六	四・七六	三・九三	三・九三	三・九三
其他	二・八八	三・二五	三・二五	三・七九	四・二二	四・二二	二・八八	二・八八	二・八八

第二一圖 男一五—一九歳主要死因別死亡率の變動



は六%に達し、「其の他の消化器の疾患」五%、「肺炎」及「脳膜炎」(結核性を除く)各、四%を示してゐる(第二〇表参照)。

(4) 主要死因別死亡率を見るに(第二一表及第二一圖)。

(イ) 「結核」は相當顯著なる上昇。

(ロ) 「不慮の傷害」にも亦「結核」と殆んど同様の傾向を認め得。

(ハ) 「肋膜炎」は顯著な上昇。

(ニ) 「其の他の消化器の疾患」も明かに上昇。

(ホ) 「肺炎」は此の階級に於ても特に顯著なる上昇。

(ヘ) 「脳膜炎」(結核性を除く)も明かに上昇。

10—20—24歳死亡率

(1) 前期を通じて傾向は明かな上昇を示し、後期に入つても依然として

同様の傾向を持続してゐる。此の年齢階級の死亡率の憂ふべき傾向は改まらざるのみならず動もすれば上昇の度を増すかの如き觀さへ呈してゐる。

(2) 後期に就て之を各歳別に見れば(第二表参照)、各歳共に其の變化は極めて複雑である。二〇歳及二四歳は甚だ著しき上昇の傾向を示し、二一、二二及二三歳には頗る不安定ではあるが稍、低下乃至は停頓の状態が覗はれる。

(3) 主要死因第一位の「結核」は此の年齢階級に至つて更に其の地位を擴大し、五一%に近付いてゐる。第二位は一五—一九歳と同じく「不慮の傷害」であつて七%に近す。「自殺」が第三位を占めて五%に達してゐるのは極めて特色がある。以下、「肋膜炎」五%、「其の他の消化器の疾患」四%である(第二二表参照)。

第三表 男 二〇—二四歳主要死因別死亡

死 因	實 數					割 合				
	昭和一〇年	昭和一一年	昭和一二一年	昭和一三一年	昭和一〇年	昭和一一年	昭和一二一年	昭和一三一年		
總 數	二八,四八一	三〇,四六六	二九,六八三	三〇,三一九	100.00	100.00	100.00	100.00		
主 要 死 因	二〇,二七二	二二,九〇一	二二,三九〇	二二,三〇四	71.18	71.89	73.06	70.27		
一 二 及 一 二 結 核	一四,四四四	一五,四九二	一五,三六八	一五,五六五	50.70	50.85	51.77	51.34		
一 一 呼 吸 器 の 結 核 (氣 管 及 氣 管 支 の 淋 巴 腺 を 含 む)	一一,三五五	一二,二四二	一一,九二九	一二,二二二	39.87	40.18	40.19	39.98		
一 二 其 の 他 の 結 核	三,〇八九	三,二五〇	三,四三九	三,四四三	10.85	10.67	11.59	11.36		
八 一 不 慮 の 傷 害	一,九三九	二,〇五九	一,九八七	一,九八〇	6.81	6.76	6.69	6.53		
七 九 自 殺	一,四五三	一,八二四	一,五〇一	一,〇三三	5.10	5.99	5.06	3.41		
四 九 肋 膜 炎	一,三六一	一,四一八	一,四七六	一,六五一	4.78	4.65	4.97	5.45		
五 八 其 の 他 の 消 化 器 の 疾 患	一,〇七五	一,一〇八	一,〇五八	一,〇七三	3.77	3.64	3.56	3.55		
其 の 他	八,二〇九	八,五六五	八,二九三	九,〇二五	28.82	28.11	27.94	29.73		

最近に於ける我が國死亡率の若干の傾向 (豫報) (一)

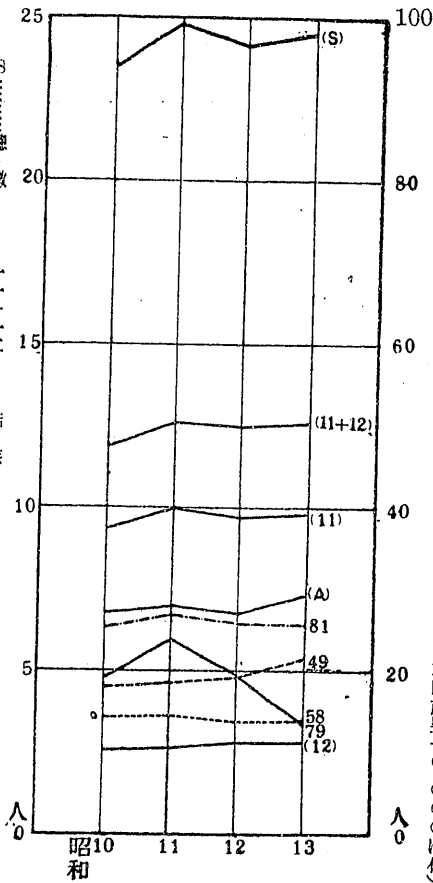
第二三表 男二〇—二四歳主要死因別死亡率

(二〇—二四歳男10,000に付)

死 因	昭和10年	昭和11年	昭和12年	昭和13年
總 數	九三・七九	九九・三三	九六・五五	九八・二六
主 要 死 因				
一 一 及 一 二 結 核	六六・七五	七二・三三	六九・五七	六八・九七
一 一 呼 吸 器 の 結 核 (氣 管 及 氣 管 支 の 結 核)	四七・五六	五〇・四五	四九・九九	五〇・四〇
一 二 其 の 他 の 結 核 (淋 巴 腺 を 含 む)	三三・三九	三九・八七	三九・八〇	三九・二五
一 一 不 慮 の 傷 害	一〇・一七	一〇・五八	一一・一九	一一・一五
八 一 自 殺	六・三九	六・七一	六・四六	六・四一
七 九 肋 膜 炎	四・七八	五・九四	四・八八	三・三五
四 九 其 の 他 の 消 化 器 の 疾 患	四・四八	四・六二	四・八〇	五・三五
五 八 其 の 他 の 消 化 器 の 疾 患	三・五四	三・六一	三・四四	三・四七
其 の 他	二七・〇三	二七・八九	二六・九七	二九・一九

第二四圖 男二〇—二四歳主要死因別死亡率の變動

(二〇—二四歳男10,000に付)



S 總數
 一一 呼吸器の結核(氣管及氣管支の結核)
 一二 其の他の結核
 八一 不慮の傷害
 七九 自殺
 四九 肋膜炎
 五八 其の他の消化器の疾患
 A 其の他
 括弧を附せるは右側の目盛に據る

(4) 主要死因別死亡率を見るに(第二三表及第一二圖参照)。

(イ) 「結核」は前年階級と同様に相當明瞭なる上昇。

(ロ) 「不慮の傷害」は殆んど「不變」。

(ハ) 「自殺」は昭和一二年以来激減。戦時に於ては初期に自殺が激減し、二、三年の後に漸増に轉ずるのが一般であつて、明かに事變の影響と見られる。

(ニ) 「肋膜炎」は相當顯著なる増加。昭和一二年から一三年にかけて特に上昇が著しい。

(ホ) 「其の他の消化器の疾患」は殆んど「不變」。

一一二五—二九歳死亡率

(1) 前期及後期に於ける傾向は前階級二〇—二四歳と全く同様であつて樂觀を許さない。

(2) 後期に就て之を各歳別に見れば(第二表参照)、各歳共に殆んど同様の傾向を示してゐるが、特に二八歳及二五歳に於て上昇が著しい。

(3) 主要死因第一位の「結核」は前年階級より若干地位を減少してゐるが猶且四七%に達してゐる。前階級と同じく第二位は「不慮の傷害」、第三位は「自殺」であつて、夫々八%及五%を占めてゐる。以下「肺炎」、「其の他の消化器の疾患」及「肋膜炎」各、約四%である(第二四表参照)。

(4) 主要死因別死亡率を見るに(第二五表及第一三圖参照)。

(イ) 「結核」は前年階級と殆んど同様の上昇。

(ロ) 「不慮の傷害」も亦前階級同様殆んど「不變」。

(ハ) 「自殺」も亦前階級同様著しく減退。

(ニ) 「肺炎」は明かな上昇を認め得るが特に昭和一三年には著しき上昇

第二四表 男二五—二九歳主要死因別死亡

死 因	昭和一〇年			昭和一一年			昭和一二年			昭和一三年		
	總數	主 要 死 因	割 合	總數	主 要 死 因	割 合	總數	主 要 死 因	割 合	總數	主 要 死 因	割 合
一一及一二結核	二,五五六	一五,二二三	二二,三五三	二,三六二	一六,七五六	二四,七〇八	一,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一,〇〇〇	七,〇九〇	一〇,〇〇〇
一一 呼吸器の結核(氣管及氣管支の 淋巴腺を含む)	一,〇,〇五三	一七,一九五	一,一七四	一,一七四	一七,七三七	一,一七四	四六,六四	四八,一五	四七,八三	四七,四六	七,〇九〇	四七,四六
一一 呼吸器の結核(氣管及氣管支の 淋巴腺を含む)	八,三五五	九,五二七	九,三三二	九,三三二	九,四九〇	三,八七六	四〇,一一	三九,〇九	三八,〇四一	三八,〇四一	三,八〇五	三八,〇四一
一二 其の他の結核	一,六九八	一,九一〇	一,九一〇	二,〇四二	二,二三七	七,八八	八,〇四	八,七四	八,七四	九,〇五	九,〇五	九,〇五
八一 不慮の傷害	一,六九一	一,八七七	一,七六八	一,七六八	一,七九二	七,八四	七,九〇	七,五七	七,五七	七,二五	七,二五	七,二五
七九 自 殺	九六九	一,一七〇	一,一〇一	一,一〇一	一,一〇一	四,五〇	四,九三	四,七一	四,七一	三,四〇	三,四〇	三,四〇
四八 肺 炎	九二二	一,〇六二	一,〇三三	一,〇三三	一,三三〇	四,二三	四,四七	四,三八	四,三八	五,三八	五,三八	五,三八
五八 其の他の消化器の疾患	八一〇	七八一	八〇八	八〇八	七九三	三,七六	三,二九	三,四六	三,四六	三,二一	三,二一	三,二一
四九 肋 膜炎	七七八	八六八	八八二	八八二	一,〇三四	三,六一	三,六五	三,七八	三,七八	四,一八	四,一八	四,一八
其の他の	六,三四三	六,五五八	六,六〇五	六,六〇五	七,一九一	二,九四三	二,七六一	二,八二七	二,八二七	二,九一〇	二,九一〇	二,九一〇

第二五表 男二五—二九歳主要死因別死亡率

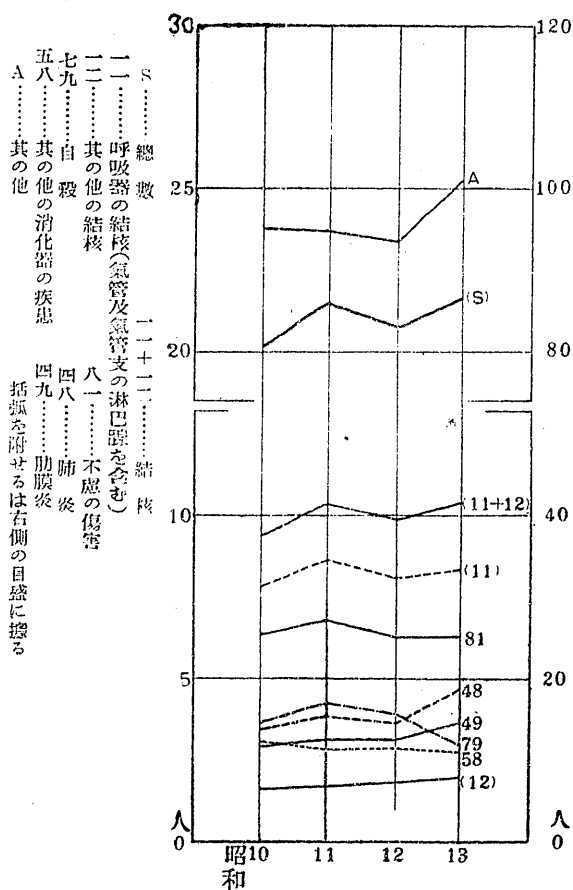
(二五—二九歳男一〇,〇〇〇に付)

死 因	昭和一〇年			昭和一一年			昭和一二年			昭和一三年		
	總數	主 要 死 因	割 合	總數	主 要 死 因	割 合	總數	主 要 死 因	割 合	總數	主 要 死 因	割 合
一一及一二結核	八〇,七三	五六,九七	八二,七六	八二,七六	八六,六七	八六,六七	八〇,七三	五六,九七	八二,七六	八〇,七三	五六,九七	八二,七六
一一 呼吸器の結核(氣管及氣管支の 淋巴腺を含む)	三二,二九	三二,二九	三二,二九	三二,二九	三二,二九	三二,二九	三二,二九	三二,二九	三二,二九	三二,二九	三二,二九	三二,二九
一一 呼吸器の結核(氣管及氣管支の 淋巴腺を含む)	六,三六	六,九〇	七,二三	七,二三	七,八五	七,八五	六,三六	六,九〇	七,二三	六,三六	六,九〇	七,二三
一二 其の他の結核	六,三六	六,七八	六,二六	六,二六	六,二九	六,二九	六,三六	六,七八	六,二六	六,三六	六,七八	六,二六
八一 不慮の傷害	六,三三	六,七三	六,二六	六,二六	六,二九	六,二九	六,三三	六,七三	六,二六	六,三三	六,七三	六,二六
七九 自 殺	三,六三	四,二三	三,九〇	三,九〇	二,九五	二,九五	三,六三	四,二三	三,九〇	三,六三	四,二三	三,九〇
四八 肺 炎	三,四二	三,八四	三,六二	三,六二	四,六七	四,六七	三,四二	三,八四	三,六二	三,四二	三,八四	三,六二
五八 其の他の消化器の疾患	三,〇三	二,八二	二,八六	二,八六	二,七八	二,七八	三,〇三	二,八二	二,八六	三,〇三	二,八二	二,八六
四九 肋 膜炎	二,九一	三,一四	三,二二	三,二二	三,六三	三,六三	二,九一	三,一四	三,二二	二,九一	三,一四	三,二二
其の他の	二,三,七五	二,三,七〇	二,三,四〇	二,三,四〇	二,五,三二	二,五,三二	二,三,七五	二,三,七〇	二,三,四〇	二,三,七五	二,三,七〇	二,三,四〇

最近に於ける我が國死亡率の若干の傾向 (豫報) (一)

第一三圖 男二五—二九歳主要死因別死亡率の變動

(二五—二九歳男一〇,〇〇〇に付)



を示してゐる。

(ホ) 「其の他の消化器の疾患」は殆んど「不變」。

(ヘ) 「肋膜炎」は前階級同様上昇を示し、特に昭和十三年の上昇が著し
 5。

二二二〇—三四歳死亡率

(1) 前期及後期に於ける傾向は前階級二五—二九歳と殆んど同様であつて之亦樂觀を許さないが、前階級に比し以下の如く其の内容は稍、良好なるかに見られる。

第二六表 男三〇—三四歳主要死因別死亡

死 因	實 數					割 合				
	昭和一〇年	昭和一一年	昭和一二年	昭和一三年	昭和一〇年	昭和一一年	昭和一二年	昭和一三年		
總 數	1,706.5	1,795.5	1,760.5	1,843.5	100.00	100.00	100.00	100.00		
主 要 死 因	1,107.4	1,127.5	1,153.8	1,188.0	70.75	71.21	71.33	71.33		
一 一 及 一 二 結 核	6,293	6,849	6,805	6,860	36.88	38.15	38.65	37.21		
一 一 呼 吸 器 の 結 核 (氣 管 又 氣 管 支 の 淋 巴 腺 を 含 む)	5,329	5,848	5,744	5,787	31.23	32.57	32.62	31.39		
一 二 其 の 他 の 結 核	964	1,001	1,061	1,073	5.65	5.56	6.03	5.82		
八 一 不 慮 の 傷 害	1,428	1,494	1,488	1,438	8.37	8.32	8.45	7.80		
四 八 肺 炎	951	1,031	936	1,266	5.57	5.75	5.32	6.87		
五 八 其 の 他 の 消 化 器 の 疾 患	666	635	595	640	3.91	3.54	3.38	3.47		
八 五 不 明 の 診 斷 及 不 詳 の 原 因	661	671	582	580	3.87	3.74	3.31	3.15		
七 九 自 殺	590	625	624	526	3.46	3.48	3.54	2.85		
五 九 腎 臟 炎	556	563	562	582	3.26	3.14	3.19	3.16		
四 九 肋 膜 炎	477	505	524	574	2.80	2.81	2.98	3.11		
三 二 腦 出 血、腦 栓 塞 及 腦 血 栓	431	411	422	414	2.53	2.29	2.40	2.25		
其 の 他	499.1	5,170	5,067	5,555	29.25	28.79	28.78	30.13		

(2) 後期に就て之を各歳別に見れば(第二表参照)、極めて複雑なる變化を見せてゐるが、三四歳の上昇は極めて著しく、三〇歳之に亞ぎ爾餘の年齢に於ては頗る不安定ではあるが傾向としては「不變」乃至は輕微なる低下が認められる。

(3) 此の年齢階級に至つて主要死因は相當分散的になつて來る。第一位の「結核」は三七%、「不慮の傷害」は依然として第二位を保ち八%餘、第三位の「肺炎」は六%、以下、「其の他の消化器の疾患」、「不明の診斷及不詳の原因」各四%、「自殺」は著しく其の地位を低下して三%、「腎臟炎」、「肋膜炎」及「腦出血、腦栓塞及腦血栓」各約三%である。「腦出血、

「脳栓塞及脳血栓」は早くも此の階級に於て主要死因中に加はるに至るのである(第二六表参照)。

- (4) 主要死因別死亡率を見るに(第二七表及第一四圖参照)。
- (イ) 「結核」の増加傾向は前年階級より若干衰へて軽度の上昇。
 - (ロ) 「不慮の傷害」は微弱ながら低下。
 - (ハ) 「肺炎」は前年階級と同様特に著しき上昇。
 - (ニ) 「その他の消化器の疾患」は極めて微弱な低下。
 - (ホ) 「不明の診断及不詳の原因」は明かなる低下。
 - (ヘ) 「自殺」は前階級と同様著しく減少。

第二七表 男三〇—三四歳主要死因別死亡率

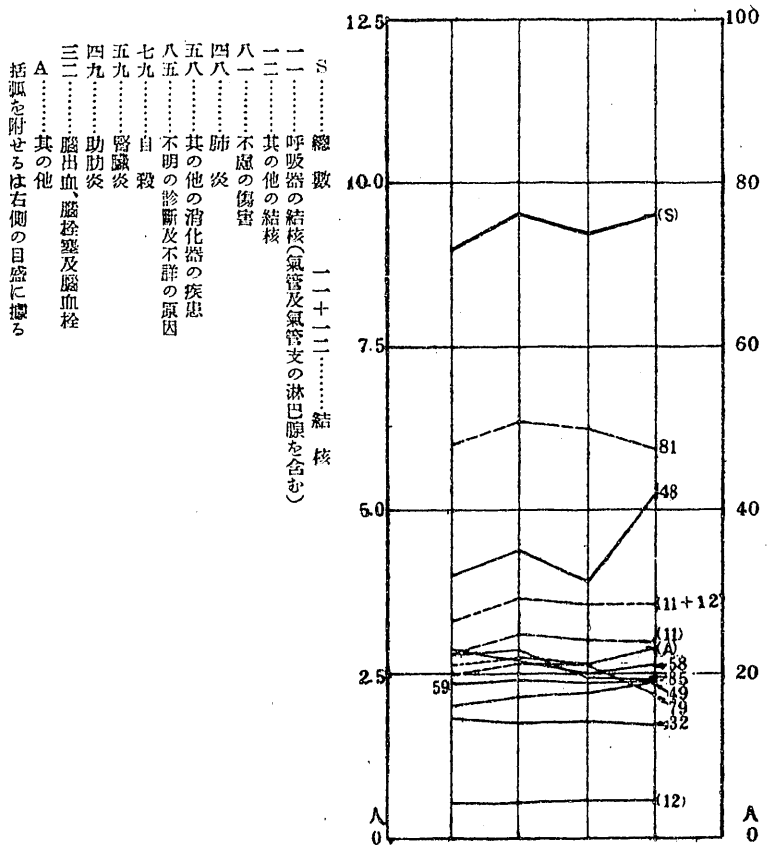
(三〇—三四歳男一〇,〇〇〇に付)

死 因	昭和一〇年	昭和一二年	昭和二年	昭和一三年
總 數	七二・七二	七六・二四	七三・九三	七六・一四
主 要 死 因				
一一 呼吸器の結核(氣管及氣管支の結核を含む)	二六・四五	二九・〇八	二八・五八	二八・三三
一二 其の他の結核	三三・四〇	二四・八三	二四・一一	二三・九〇
八一 不慮の傷害	四・〇五	四・二五	四・四六	四・四三
八二 肺 炎	六・〇〇	六・三四	六・二五	五・九四
四八 肺 炎	四・〇〇	四・三八	三・九三	五・二三
五八 其の他の消化器の疾患	二・八八	二・七〇	二・五〇	二・六四
八五 不明の診断及不詳の原因	二・七八	二・八五	二・四四	二・四〇
七九 自 殺	二・四八	二・六五	二・六二	二・一七
五九 腎 臟 炎	二・三四	二・三九	二・三六	二・四〇
四九 肋 膜 炎	二・〇〇	二・二四	二・二〇	二・三七
三三 腦出血、腦栓塞及腦血栓	一・八二	一・七五	一・七七	一・七一
其の他の	二〇・九八	二二・九五	二二・二八	二三・九四

最近に於ける我が國死亡率の若干の傾向 (豫報) (一)

第一四圖 男三〇—三四歳主要死因別死亡率の變動

(三〇—三四歳男一〇,〇〇〇に付)



- (ト) 「腎臟炎」は殆んど「不變」。
- (チ) 「肋膜炎」は前階級同様上昇。
- (リ) 「腦出血、腦栓塞及腦血栓」は此の階級に於ては殆んど「不變」乃至は微弱なる低下。

一三三 三五—三九歳死亡率

(一) 前期に於ては極めて軽度の低下の傾向を認めることが出来るが、後期に於ては上昇を示してゐる。但し其の程度は前年階級に比して軽度

である。

(2) 後期に就て之を各歳別に見れば(第二表参照)、極めて複雑なる變化を示してゐるが、各歳共に明かに上昇の傾向を認めることが出来る。三八歳を除いて爾後の年齢に於ては昭和一二年から同一三年にかけて急激な上昇を示してゐる。特にその著しきものは三六歳及三九歳である。

(3) 前年齢階級に比し、主要死因は更に分散的となつてゐる。首位は依然として「結核」であるが其の地位は二七%に低下してゐる。「不慮の傷害」として「結核」であるが其の地位は二七%に低下してゐる。「不慮の傷害」

害」は依然として第二位を保ち八%、「肺炎」も亦第三位を保ち六%、「脳出血、脳栓塞及脳血栓」は著しく其の地位を高めて第四位に來り五%餘、「其の他の消化器の疾患」、「不明の診断及不詳の原因」、「腎臓炎」、「癌、其の他の悪性腫瘍」、各、四%等を示してゐる(第二八表参照)。

(4) 主要死因別死亡率を見るに(第二九表及第一五圖参照)。(イ) 「結核」は前年齢階級と同様若干の増加。(ロ) 「不慮の傷害」は明かなる上昇。

第二八表 男三五—三九歳主要死因別死亡

死 因	實 數					割 合				
	昭和一〇年	昭和一一年	昭和一二一年	昭和一三一年	昭和一四一年	昭和一〇年	昭和一一年	昭和一二一年	昭和一三一年	
總 數	一五、八七一	一六、九八九	一七、一九九	一八、四八一	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	
主 要 死 因	一一、二六三	一一、八八五	一二、一五五	一二、九六五	七〇・九七	六九・九六	七〇・六七	七〇・一五	七〇・一五	
一 一 及 二 二 結 核	四、二四九	四、六六五	四、七七七	五、〇三三	二六・七七	二七・四六	二七・七七	二七・二三	二七・二三	
一 一 呼 吸 器 の 結 核 (氣 管 及 氣 管 支 の 結 核 含 む)	三、六六八	四、〇四一	四、〇五四	四、二五九	二三・一一	二三・七九	二三・五七	二三・〇五	二三・〇五	
一 二 其 の 他 の 結 核	五八一	六二四	七二三	七七四	三・六六	三・六七	四・二〇	四・一九	四・一九	
八 一 不 慮 の 傷 害	一、二八八	一、三三四	一、三九五	一、五〇五	八・二二	七・八五	八・一一	八・二四	八・二四	
四 八 肺 炎	九三一	一、〇三二	一、〇五四	一、四一三	五・八七	六・〇七	六・一三	七・六五	七・六五	
三 三 腦 出 血、腦 栓 塞 及 腦 血 栓	八六八	九〇九	八六一	九七四	五・四七	五・三五	五・〇一	五・二七	五・二七	
五 八 其 の 他 の 消 化 器 の 疾 患	六九一	六〇一	六三一	六三一	四・三五	三・五四	三・六七	三・四一	三・四一	
八 五 不 明 の 診 斷 及 不 詳 の 原 因	六八三	七一九	六九一	七〇五	四・三五	四・二三	四・〇二	三・八一	三・八一	
五 九 腎 臟 炎	六六四	六五九	七三三	七七九	四・一八	三・八八	四・一五	四・三二	四・三二	
一 八 癩、其の他の悪性腫瘍	五六二	五六八	五八〇	五八八	三・五四	三・三四	三・三七	三・一八	三・一八	
七 九 自 殺	五四〇	五九三	五六四	四八九	三・四〇	三・四九	三・二八	三・六五	三・六五	
五 一 胃 及 十 二 指 腸 の 潰 瘍	四〇三	四四七	四五一	四五一	二・五四	二・六三	二・六二	二・四四	二・四四	
四 〇 慢 性 心 臟 内 膜 炎 及 心 臟 瓣 膜 の 障 碍	三六四	三五八	四三八	三九七	二・四二	二・一一	二・五五	二・一五	二・一五	
其 の 他	四、六〇八	五、一〇四	五、〇四四	五、五一六	二九・〇三	三〇・〇四	二九・三三	二九・八五	二九・八五	

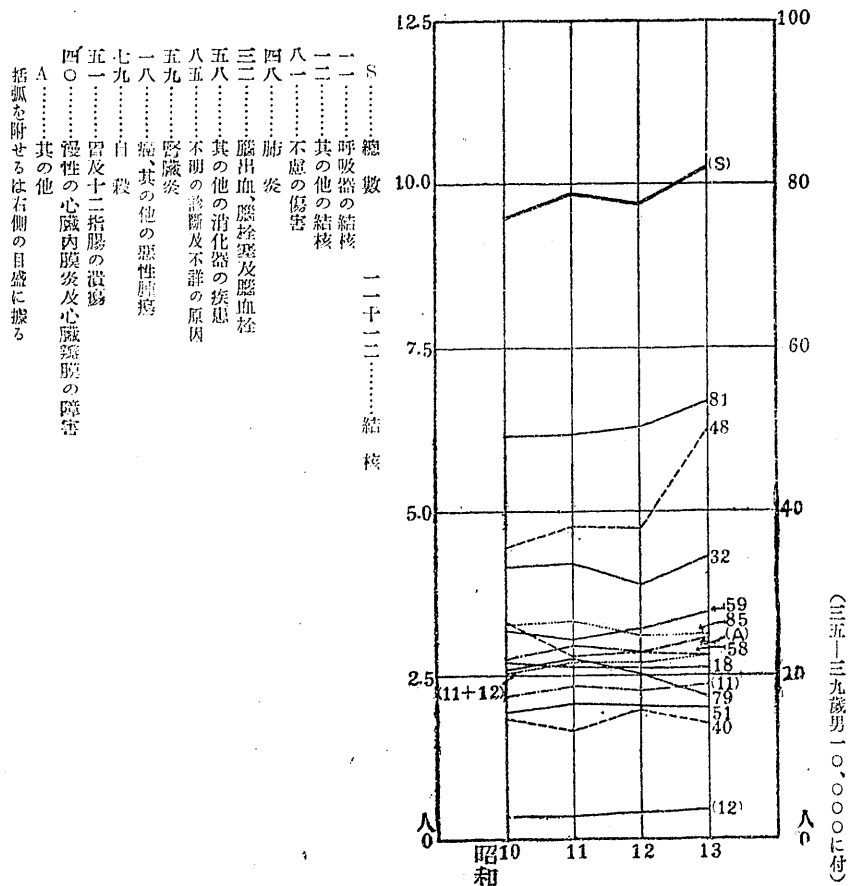
- (ハ) 「肺炎」は此の年齢階級に於ても著しき上昇。
- (ニ) 「脳出血、脳栓塞及脳血栓」は殆んど「不變」。
- (ホ) 「其の他の消化器の疾患」も亦殆んど「不變」。
- (ヘ) 「不明の診断及不詳の原因」は微弱なる低下。
- (ト) 「腎臓炎」は明瞭なる上昇。
- (チ) 「癌、其の他の悪性腫瘍」は微弱なる低下。
- (リ) 「自殺」は前年齢階級同様著しき低下。
- (ヌ) 「胃及十二指腸の潰瘍」は殆んど「不變」。
- (ル) 「慢性心臓内膜炎及心臓瓣膜の障碍」も亦「不變」。

第二九表 男三五—三九歳主要死因別死亡率

死	因	昭和一〇年	昭和一二年	昭和一三年
總	數	七五・八一	七八・七三	七五・五一
主	要			
一	一 及 二 結 核	五三・八〇	五五・〇八	五四・七八
二	一 呼 吸 器 の 結 核 (氣管及氣管支、 淋巴腺を含む)	二〇・三〇	二一・六二	二一・五三
二	二 其 の 他 の 結 核	一七・五二	一八・七三	一八・九〇
八	一 不 慮 の 傷 害	二・七八	二・八九	三・二六
八	二 不 慮 の 傷 害	六二・五	六二・八	六二・九
四	八 肺 炎	四・四五	四・七八	四・七五
三	三 腦 出 血、腦 栓 塞 及 腦 血 栓	四・一五	四・二二	三・八八
五	五 八 其 の 他 の 消 化 器 の 疾 患	三・三〇	二・七九	二・八四
八	八 五 不 明 の 診 断 及 不 詳 の 原 因	三・二六	三・三三	三・一一
五	五 九 腎 臓 炎	三・一七	三・〇五	三・二一
一	一 八 癌、其の他の悪性腫瘍	二・六八	二・六三	二・六一
七	七 九 自 殺	二・五八	二・七五	二・五四
五	五 一 胃 及 十 二 指 腸 の 潰 瘍	一・九三	二・〇七	二・〇三
四	四 〇 慢 性 心 臓 内 膜 炎 及 心 臓 瓣 膜 の 障 碍	一・八三	一・六六	一・九七
其	其 の 他	三三・〇一	三三・六五	三三・七三

最近に於ける我が國死亡率の若干の傾向 (豫報) (一)

第一五圖 男三五—三九歳主要死因別死亡率の變動



一四 四〇—四九歳死亡率

(一) 前期に於ては明瞭なる低下の傾向を認めることが出来る。後期に於ては特に昭和一二年から同一三年に著しき上昇を示していることが特色である。此の特色は三五—三九歳から年齢階級が高次に進むにつれて益益顯著になつてゐる。それは一般に昭和一二年から同一三年への死亡数の増加乃至は死亡率總數の増加に與つて力あるものが此等の比較的高次

の年齢階級に於ける死亡率の上昇であるといふことを示してゐる。

(2) 後期に就て之を各歳別に見れば(第二表参照)、四一歳四三歳等の二、三の例外を除けば、何れも前項と同様の傾向を示してゐる。但し昭和一二年から同一三年への上昇の程度は年齢を加へるに従つて著しくなつてゐる。

(3) 主要死因の第一位は依然として「結核」であるが、その地位は更に低下して一六・二%である。「脳出血、脳栓塞及脳血栓」は第二位に昇り一

三%を占めるに至つてゐる。「癌、其の他の悪性腫瘍」も地位を高めて第三位に至り七・八%を示してゐる。以下「不慮の傷害」六%、「肺炎」及「腎臓炎」各々五%、「不明の診断及不詳の原因」及「其の他の消化器の疾患」各、四%等である(第三〇表参照)。

(4) 主要死因別死亡率を見るに(第三二表及第一六圖参照)、
(イ) 「結核」は此の階級に於ては軽度の低下。
(ロ) 「脳出血、脳栓塞及脳血栓」は特に昭和一二三年に上昇。

第三〇表 男 四〇—四九歳主要死因別死亡

死 因	實 数				割 合			
	昭和一〇年	昭和一一年	昭和一二年	昭和一三年	昭和一〇年	昭和一一年	昭和一二年	昭和一三年
總 数	三八,三九八	三九,六一八	三九,三二四	四二,五〇八	100.00	100.00	100.00	100.00
主 要 死 因	二七,一六八	二八,〇一四	二七,六三一	二九,六一九	70.75	70.91	70.28	69.68
一 一 及 一 二 結 核	六,二三〇	六,六八四	六,四九〇	六,六六六	一六.二〇	一六.八七	一六.五二	一五.六八
一 一 呼 吸 器 の 結 核 (氣 管 及 氣 管 支 の 淋 巴 腺 を 含 む)	五,四〇八	五,七八六	五,五六七	五,六九一	一四.〇八	一四.六〇	一四.一六	一三.三九
一 二 其 の 他 の 結 核	八二二	八九八	九二二	九七五	二.二一	二.二七	二.三五	二.二九
三 二 腦 出 血, 腦 栓 塞 及 腦 血 栓	四,九三九	四,九九四	五,〇三四	五,三七三	一二.八六	一二.六一	一二.八〇	一二.六四
一 八 癌, 其 の 他 の 悪 性 腫 瘍	二,九九七	二,九〇七	三,〇二八	二,八七〇	七.八一	七.三四	七.七〇	六.七五
八 一 不 慮 の 傷 害	二,一〇〇	二,二二五	二,二五七	二,五九一	五.七三	五.五九	五.七四	六.一〇
四 八 肺 炎	二,〇七一	二,三七八	二,二七九	二,九〇三	五.三九	六.〇〇	五.五四	六.八三
五 九 腎 臟 炎	二,〇三九	二,〇九七	二,一〇七	二,三四八	五.三一	五.二九	五.三六	五.五二
八 五 不 明 の 診 斷 及 不 詳 の 原 因	一,七〇七	一,八二二	一,六八五	一,七七八	四.四五	四.六〇	四.二九	四.一八
五 八 其 の 他 の 消 化 器 の 疾 患	一,四五六	一,三七八	一,三七七	一,四三五	三.八〇	三.四八	三.五〇	三.三八
五 一 胃 及 十 二 指 腸 の 潰 瘍	一,三二九	一,三二七	一,三五一	一,五四五	三.四六	三.三五	三.四四	三.六三
四 〇 慢 性 心 臟 内 膜 炎 及 心 臟 瓣 膜 の 障 碍	一,一六三	一,一四五	一,二二七	一,一六八	二.八九	二.八四	二.八四	二.七五
七 九 自 殺	一,〇四五	一,〇六八	一,〇〇六	九四一	二.七二	二.七〇	二.五六	二.二二
其 の 他	一一,二三〇	一一,六〇四	一一,六八三	一一,八八九	二九.二五	二九.二九	二九.七二	三〇.三三

(ハ) 「癩、其の他の悪性腫瘍」は明かな低下傾向を示してゐる。
 (ニ) 「不慮の傷害」は上昇。
 (ホ) 「肺炎」は此の年齢階級に於ても明かに上昇。特に昭和一三年の上昇は顯著。

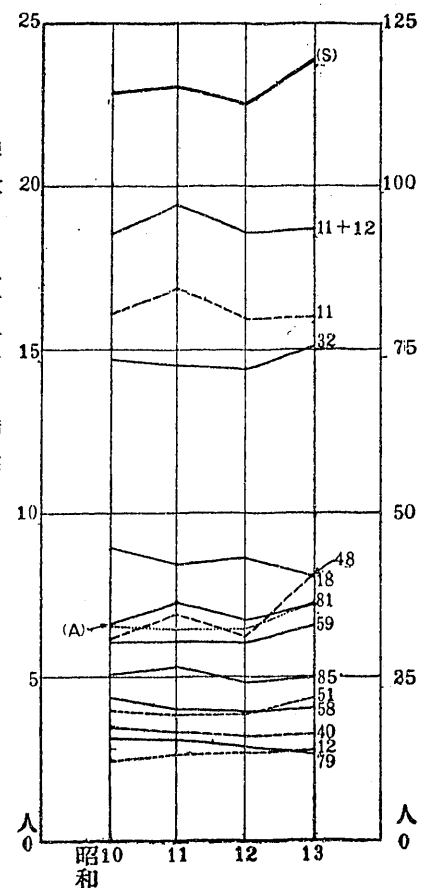
(ヘ) 「腎臓炎」は軽度の上昇。
 (ト) 「不明の診断及不詳の原因」は「不變」。
 (チ) 「其の他の消化器の疾患」は極めて微弱なる低下。

第三二表 男四〇—四九歳主要死因別死亡率

死	因	昭和一〇年	昭和二年	昭和三年	昭和十三年
總	數	一四・三三	一一・五三〇	一一・二六一	一一・九・五三
主	要				
一	二及二二	核	一八・五二	一九・四五	一八・五九
一	一	呼吸器の結核(氣管及氣管支の 淋巴腺を含む)	一六・二〇	一六・八四	一五・九五
一	二	其の他の結核	二・四三	二・六一	二・六四
三	三	腦出血、腦栓塞及腦血栓	一四・七〇	一四・五三	一四・四二
一	八	癩、其の他の悪性腫瘍	八・九二	八・四六	八・六七
八	一	不慮の傷害	六・五五	六・四五	六・四七
四	八	肺	六・二七	六・九二	六・二四
五	九	腎	六・〇七	六・一〇	六・〇四
八	五	不明の診断及不詳の原因	五・〇八	五・三〇	四・八三
五	八	其の他の消化器の疾患	四・三四	四・〇一	三・九四
五	一	胃及十二指腸の潰瘍	三・九六	三・八六	三・八七
四	〇	慢性心臟内膜炎及心臟瓣膜の 障害	三・四六	三・三三	三・二〇
七	九	自殺	三・一一	三・一一	二・八八
其	の	他	三・三三	三・三七	三・四七

最近に於ける我が國死亡率の若干の傾向 (豫報) (一)

第一六圖 男四〇—四九歳主要死因別死亡率の變動



S 總數
 一一 呼吸器の結核
 一二 其の他の結核
 三二 腦出血、腦栓塞及腦血栓
 一八 癩、其の他の悪性腫瘍
 八一 不慮の傷害
 四八 肺炎
 五九 腎臓炎
 八五 不明の診断及不詳の原因
 五八 其の他の消化器の疾患
 五一 胃及十二指腸の潰瘍
 四〇 慢性心臟内膜炎及心臟瓣膜の障害
 七九 自殺
 A 其の他
 括弧を附せるは右側の目盛に據る

(リ) 「胃及十二指腸の潰瘍」は上昇。
 (ヌ) 「慢性心臟内膜炎及心臟瓣膜の障害」は「不變」。
 (ル) 「自殺」は低下。

一五 五〇—五九歳死亡率

(1) 前期に於ては傾向は「不變」であるが、後期に入つて明かなる上昇を認めることが出来る。

第三二表 男五〇—五九歳主要死因別死亡

死 因	實 數					割 合
	昭和一〇年	昭和一一年	昭和一二年	昭和一三年	合	
總 數	六二,六四九	六四,七三三	六二,八四九	六七,六七七	一〇〇.〇〇	一〇〇.〇〇
主 要 死 因	四四,三六九	四五,四六〇	四四,五四六	四七,九〇四	七〇.九三	七〇.二三
一八 癩、其の他の悪性腫瘍	一三,七七一	一四,〇七一	一四,〇一八	一五,二七三	二二.九八	二二.七四
一一及一二 結核	七,五八〇	七,四一四	七,六九七	七,四三五	一二.一〇	一一.四五
一一 呼吸器の結核(氣管及氣管支の結核)	四,八七六	五,一六二	四,九四八	五,〇七〇	七.七八	七.九七
一一 其の他の結核	四,二三八	四,四九二	四,二七一	四,三三二	六.七五	六.九四
五九 腎 臟 炎	四,一六七	四,〇六四	四,〇五五	四,四三三	六.六五	六.二八
四八 肺 炎	三,二七〇	三,八八九	三,二四六	四,一三九	五.二二	六.〇一
八五 不明の診断及不詳の原因	二,三二二	二,五三三	二,二五四	二,五四六	三.六九	三.九〇
五一 胃及十二指腸の潰瘍	二,二二八	二,二二五	二,二五〇	二,四四八	三.五六	三.四四
四〇 慢性心臓内膜炎及心臓瓣膜の障害	二,一三三	二,〇七〇	二,〇四七	二,三三二	三.四〇	三.二〇
五八 其の他の消化器の疾患	二,〇二七	一,九九二	一,九〇九	二,〇六五	三.二四	三.〇八
五三 下痢、腸炎及腸潰瘍(二歳以上)	二,〇〇四	二,〇五一	二,〇五二	二,二九三	三.二〇	三.一七
其の他の	一八,二八〇	一九,二七二	一八,三〇三	一九,七〇三	二九.二八	二九.七七

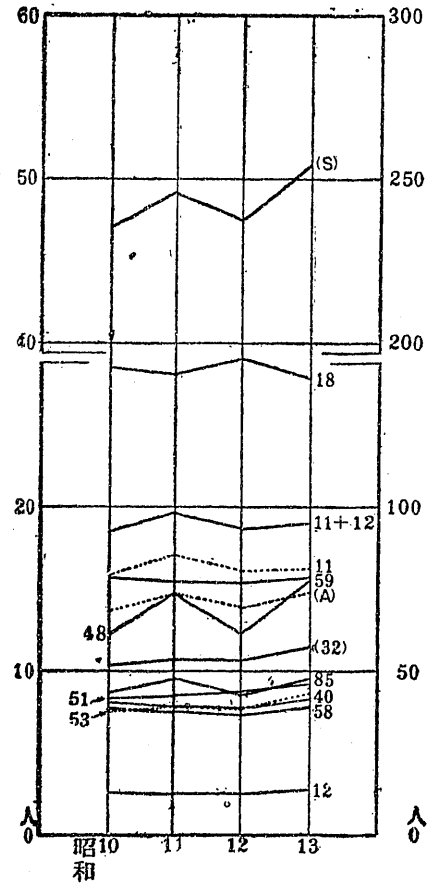
第三三表 男五〇—五九歳主要死因別死亡率

(五〇—五九歳男一〇,〇〇〇に付)

死 因	實 數					割 合
	昭和一〇年	昭和一一年	昭和一二年	昭和一三年	合	
總 數	二三五.五七	二四五.八六	二三七.七〇	二五四.〇二	一〇〇.〇〇	一〇〇.〇〇
主 要 死 因	一六六.八三	一七二.六六	一六八.四八	一八〇.〇〇	七〇.九三	七〇.二三
一八 癩、其の他の悪性腫瘍	五二.七八	五三.四四	五三.〇二	五七.三九	二二.九八	二二.七四
一一及一二 結核	一八.四七	一八.七一	一八.七一	一八.七一	七.七八	七.九七
一一 呼吸器の結核(氣管及氣管支の結核)	一五.九〇	一七.〇六	一六.一五	一六.二八	六.七五	六.九四
一一 其の他の結核	二.五七	一.四一	二.〇〇	二.〇〇	一.〇三	一.〇四
五九 腎 臟 炎	一五.六七	一五.四四	一五.三四	一六.六一	六.六五	六.二八
四八 肺 炎	二.五七	二.五四	二.二五	二.五四	三.二四	三.〇八
八五 不明の診断及不詳の原因	二.二五	二.二五	二.二五	二.二五	三.六九	三.九〇
五一 胃及十二指腸の潰瘍	二.二五	二.二五	二.二五	二.二五	三.五六	三.四四
四〇 慢性心臓内膜炎及心臓瓣膜の障害	二.二五	二.二五	二.二五	二.二五	三.四〇	三.二〇
五八 其の他の消化器の疾患	二.二五	二.二五	二.二五	二.二五	三.二四	三.〇八
五三 下痢、腸炎及腸潰瘍(二歳以上)	二.二五	二.二五	二.二五	二.二五	三.二〇	三.一七
其の他の	二.二五	二.二五	二.二五	二.二五	二九.二八	二九.七七

第一七圖 男五〇—五九歳主要死因別死亡率の變動

(五〇—五九歳男一〇,〇〇〇に付)



- S 総數
 - 三三 腦出血、腦栓塞及腦血栓
 - 一八 癌、其の他の悪性腫瘍
 - 一一二 結核
 - 一一一 呼吸器の結核(氣管及氣管支の淋巴腺を含む)
 - 一一 其の他の結核
 - 五九 腎臓炎
 - 四八 肺炎
 - 八五 不明の診断及不詳の原因
 - 五一 胃及十二指腸の潰瘍
 - 四〇 慢性心臓内膜炎及心臓瓣膜の障害
 - 五八 其の他の消化器の疾患
 - 五三 下痢、腸炎及腸潰瘍(二歳以上)
 - A 其の他の
- 括弧を附せるは右側の目盛に據る

(2) 後期に就て之を各歳別に見れば(第二表参照)、五歳のみを除いて何れも前項と同様の傾向を示してゐる。昭和一二年より同一三年への上昇は年齢が高次になる程著しい傾きがある。

(3) 死因中、一〇歳以上第一位を占めて来た「結核」が第三位に下り八%に満たぬ状態である。「腦出血、腦栓塞及腦血栓」が第一位に昇り二二%、「痛、其の他の悪性腫瘍」が第二位に上り一二%、以下、「腎臓炎」七%、「肺炎」五%、「不明の診断及不詳の原因」及「胃及十二指腸の潰瘍」各四%

最近に於ける我が國死亡率の若干の傾向 (豫報) (一一)

等である(第三二表参照)。

(4) 主要死因別死亡率を見るに(第三三表及第一七圖参照)、

- (イ) 「腦出血、腦栓塞及腦血栓」は明かなる上昇。
- (ロ) 「癌、其の他の悪性腫瘍」は殆んど「不變」。
- (ハ) 「結核」も亦殆んど「不變」。
- (ニ) 「腎臓炎」も亦殆んど「不變」。
- (ホ) 「肺炎」は明かなる上昇。
- (ヘ) 「不明の診断及不詳の原因」は「不變」。
- (ト) 「胃及十二指腸の潰瘍」は上昇。
- (チ) 「慢性心臓内膜炎及心臓瓣膜の障害」は上昇。
- (リ) 「其の他の消化器の疾患」は殆んど「不變」。
- (ヌ) 「下痢、腸炎及腸潰瘍」(二歳以上)は上昇。

一六 六〇歳以上死亡率

(1) 前期の傾向は低下を示してゐるが、後期に於ては上昇を見せてゐる。特に昭和一二年から同一三年に至つて急激に増加を示してゐる。

(2) 後期に就て之を各歳別に見れば(第二表参照)、七〇歳のみを除き他はすべて前項總數と同様の傾向を示してゐる。此處でも年齢が高次に進むに従つて昭和一三年の上昇が顯著である。

(3) 此の年齢階級に至つて死因は再び集中的となつてゐる。第一位の「腦出血、腦栓塞及腦血栓」は二五%、第二位の「老衰」一九%、以下「腎臓炎」及「痛其の他の悪性腫瘍」各、八%、「肺炎」五%、「下痢、腸炎及腸潰瘍」(二歳以上)四%、「慢性心臓内膜炎及心臓瓣膜の障害」三%である(第三四表参照)。

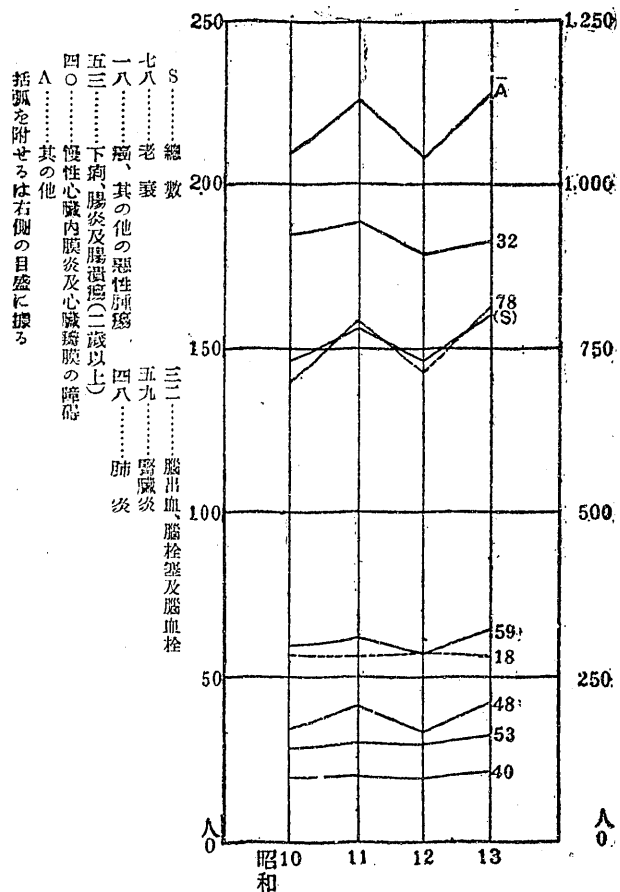
第三四表 男六〇歳以上主要死因別死亡

死因	昭和一〇年			昭和一一年			昭和一二年			昭和一三年		
	數	割合	人	數	割合	人	數	割合	人	數	割合	人
總	一六七,六五六		100.00	一八三,五〇八		100.00	一七五,四九八		100.00	一九六,六一七		100.00
主 要												
一 腦出血、腦栓塞及腦血栓	一一九,七八四	70.6	71,052	一三〇,四〇八	71.4	71,052	一四〇,六三〇	71.4	71,052	一四〇,六三〇	71.4	71,052
二 老	四二,三〇八	25.2	25,140	四四,三〇八	24.4	25,140	四七,三三三	25.2	25,140	四七,三三三	25.2	25,140
三 腎	三二,〇四六	19.5	19,511	三七,一九一	20.7	19,511	四〇,一三五	22.8	19,511	四〇,一三五	22.8	19,511
四 癩、其の他の悪性腫瘍	一三,五九九	8.1	8,111	一四,三七三	8.1	8,111	一五,八一一	8.9	8,111	一五,八一一	8.9	8,111
五 肺	一二,八九八	7.8	7,839	一三,一八三	7.4	7,839	一三,七四八	7.8	7,839	一三,八三九	7.8	7,839
六 下痢、腸炎及腸潰瘍(二歳以上)	七,九八四	4.8	4,766	九,六八四	5.6	4,766	七,九七七	4.6	4,766	一〇,三五七	5.4	4,766
七 慢性心臓内膜炎及心臓瓣膜の障碍	六,四八〇	3.9	3,877	七,〇〇七	4.0	3,877	七,一四五	4.0	3,877	七,九七五	4.0	3,877
八 其の他の	四,四六九	2.7	2,633	四,六六二	2.6	2,633	四,六〇九	2.6	2,633	五,一九〇	2.7	2,633
九 其他	四七,八七二	28.4	28,488	五三,一〇〇	28.9	28,488	四九,九七六	28.5	28,488	五五,九八七	28.5	28,488

第三五表 男六〇歳以上主要死因別死亡率

死因	昭和一〇年			昭和一一年			昭和一二年			昭和一三年		
	數	割合	人	數	割合	人	數	割合	人	數	割合	人
總	七三二,七六	78.0	730,690	七三〇,六九	78.0	730,690	八〇一,三六	80.1	801,360	七三二,七六	78.0	730,690
主 要												
一 腦出血、腦栓塞及腦血栓	一八四,六六	18.8	183,670	一八八,四一	18.8	183,670	一九三,六七	19.2	183,670	一八四,六六	18.8	183,670
二 老	一三九,八七	15.8	142,750	一五八,一五	14.2	142,750	一四二,七五	14.2	142,750	一三九,八七	15.8	142,750
三 腎	五九,三五	6.1	56,800	六二,一一	6.4	56,800	五九,八〇	6.4	56,800	五九,三五	6.1	56,800
四 癩、其の他の悪性腫瘍	一八,四一五	2.5	18,415	一八,四一五	2.5	18,415	一八,四一五	2.5	18,415	一八,四一五	2.5	18,415
五 肺	一三,五一一	1.8	13,511	一三,五一一	1.8	13,511	一三,五一一	1.8	13,511	一三,五一一	1.8	13,511
六 下痢、腸炎及腸潰瘍(二歳以上)	七,九八四	1.1	7,984	九,六八四	1.3	7,984	七,九七七	1.1	7,984	一〇,三五七	1.4	7,984
七 慢性心臓内膜炎及心臓瓣膜の障碍	六,四八〇	0.9	6,480	七,〇〇七	1.0	6,480	七,一四五	1.0	6,480	七,九七五	1.1	6,480
八 其の他の	四,四六九	0.6	4,469	四,六六二	0.6	4,469	四,六〇九	0.6	4,469	五,一九〇	0.7	4,469
九 其他	二〇八,九四	28.6	208,940	二二五,八〇	30.9	208,940	二〇八,〇八	28.6	208,940	二二八,一九	31.2	208,940

第一八圖 男六〇歳以上主要死因別死亡率の變動



(4) 主要死因別死亡率を見るに(第三五表及第一八圖)、

(イ) 「脳出血、脳栓塞及脳血栓」は傾向としては低下。

(ロ) 「老衰」は明かなる上昇。六〇歳以上死亡率總數の上昇は老衰の上昇によること頗る大なるものと認められる。

(ハ) 「腎臓炎」は軽度の上昇。

(ニ) 「癌、其の他の悪性腫瘍」は殆んど「不變」。

(ホ) 「肺炎」は上昇。

(ヘ) 「下痢、腸炎及腸潰瘍」(二歳以上)は軽度の上昇。

(ト) 「慢性心臓内膜炎及心臓瓣膜の障碍」は殆んど「不變」。

備考

本稿校正中に醫學博士渡邊定氏の好意により同博士及理學士川井三郎氏共著「日本人の壽命に關する研究」の假製本を閲讀する機會を得た。本書は主として大正一〇年より昭和一〇年に至る期間の事實に據り、我が國死亡率の精密詳細なる社會衛生學的研究所を遂げられたるものである。殆んど利用し得る資料の一切を動員したる力篇であつて推賞するに躊躇せざるものである。昭和一〇年以後の傾向に重點を置く本稿と併せて一讀を乞ふ次第である。

水島博士發表「本邦の眞の人口自然増加率」

過般東京市丸ノ内工業俱樂部に於て開催の日本學術振興會第一特別(民族科學)委員會研究報告會に於て、同委員會委員、九州帝國大學教授醫學博士水島治夫氏は、最近の資料に基き、Dublin-Lotkaの方法に據り算定せられたる内地及朝鮮の「眞の人口動態率」を發表せられた。人口問題研究上極めて貴重な業績であると考へられるから報告中若干の結果を抜萃して掲ぐれば左の如くである。(本誌第一卷第一號六三—四頁をも参照)

一、昭和一二年の出生統計に據る

出生率	粗	内地人口一〇萬以上の都市	内地人口一〇萬未滿の市町村
	眞	二九・九五	二四・九六
増加率	粗	三一・六九	二二・七九
	眞	二二・七九	三五・二四

二、昭和一二三年の出生統計に據る

死亡率	粗	一六・三八	一三・九〇	一七・二三
	眞	一六・八五	一九・二三	一七・四八
増加率	粗	一三・五七	一一・〇六	一四・四二
	眞	一四・八四	三・五六	一七・七六

出生率	粗	東京市	大阪市	京都市	名古屋市	横濱市	神戸市
	眞	三三・八〇	三三・四七	一九・四四	三五・六六	二四・八四	一九・九九
死亡率	粗	一四・〇七	一四・四九	一〇・六〇	二九・四三	一四・四一	九・七一
	眞	一三・〇一	一三・三六	一四・三三	一五・三三	一五・二七	一四・五三
増加率	粗	三三・五五	三五・七〇	二八・八六	三〇・〇三	二四・四一	二九・九三
	眞	一〇・九	九・二	五・三	一〇・四三	九・七	五・四